実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

・介護福祉科

・介護保育科

・社会福祉科

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

介護福祉科　１８０６時間

実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の実務経験
上原　尚子	生活支援技術Ⅰ	20	医療施設にて管理栄養士、介護福祉士、健康運動指導士として勤務
	生活支援技術Ⅱ	10	
内平　八重子	認知症の理解	60	保健師として勤務,社会福祉協議会にて社会福祉士として勤務
小田　理恵	生活支援技術Ⅱ	80	高齢者福祉施設にて相談員として勤務
上栗　哲男	児童福祉論	30	児童養護施設理事長兼施設長
河野　ひろ子	発達と老化の理解	60	病院、高齢者施設にて看護師として勤務
	障害の理解	60	
	こころとからだのしくみⅡ	30	
	介護過程Ⅱ	60	
	介護過程Ⅲ	30	
	介護総合演習Ⅱ	60	
	生活支援技術Ⅲ	60	
﨑井　真弓	生活支援技術Ⅰ	6	病院にて看護師として勤務
	こころとからだのしくみⅠ	30	
	こころとからだのしくみⅡ	60	
	医療的ケアⅠ	50	
	医療的ケアⅡ	10	
	生活支援技術Ⅲ	20	
澤田　祥子	コミュニケーション技術	10	広島県ろうあ連盟から派遣され手話通訳士として多部門で勤務
野村　裕之	介護の基本Ⅰ	100	病院にて介護福祉士として勤務
	介護の基本Ⅱ	30	
藤田　玖味子	コミュニケーション技術	50	精神障害者就労促進事業作業所にて指導員として勤務
山﨑　年幸	人間関係とコミュニケーション	40	病院にて介護福祉士として勤務
	介護の基本Ⅰ	30	
	生活支援技術Ⅱ	140	
	介護総合演習Ⅰ	60	
	介護過程Ⅰ	60	
牟田口　辰巳	生活支援技術Ⅲ	2	日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ連携科学会理事 元広島大学大学院教育学研究科特別支援教育講座教授
長尾　博	生活支援技術Ⅲ	4	元宮城教育大学教育学部視覚障害教育教授
辻　芽衣子	生活支援技術Ⅲ	2	日本盲導犬協会島根あさひ訓練センター普及推進部スタッフ
スポーツ指導員	生活支援技術Ⅲ	2	広島県障碍者リハビリテーションセンタースポーツ交流センターおりづる職員
河野　ひろ子 山崎　年幸 各実習施設指導者	介護実習Ⅰ	45	実習施設指導者は高齢者福祉施設にて指導者要件のある人が担当 （法令上、実習指導者になる要件の一つとして、介護福祉士資格取得後3年以上の実務が必要）
	介護実習Ⅱ	90	
	介護実習Ⅲ	135	
	介護実習Ⅳ	180	
森脇　浩子 各実習施設指導者	社会福祉現場実習	90	実習施設指導者は各施設にて指導者要件のある人が担当 （法令上、実習指導者になる要件の一つとして、資格によって3年から8年の相談援助実務が必要）
		1806	

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　上原　尚子
生活支援技術　Ⅰ　（栄養）	（講義・演習・実習）	元　クリニック管理栄養士

授業の回数	時間数	配当学年・時期
10コマ	20時間	介護福祉科1年

[授業の目的・ねらい]

支援対象者の生活をより安全で健康的な食生活にするために、「自立に向けた食事の介護」を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

三大栄養素（たんぱく質、脂質、炭水化物）をはじめとし、生活支援に必要な栄養学の基礎知識を学ぶ。高齢者や様々な疾患の特長と栄養的な支援方法を学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]
栄養摂取の重要性とその適切な方法を修得する。
高齢者や疾患のある対象者に必要な栄養の知識を修得する。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 自立に向けた食事の介護　食事に意義と目的
2 栄養に関する基礎知識①　炭水化物
3 栄養に関する基礎知識②　脂質
4 栄養に関する基礎知識③　タンパク質
5 栄養に関する基礎知識④　ミネラル
6 栄養に関する基礎知識⑤　ビタミン
7 安全で的確な食事の介護　高齢者の栄養と食事
8 疾患別の栄養と食事①
9 疾患別の栄養と食事②
10 試験

[使用テキスト]

教科書、プリント

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

試験を行い、その内容で評価する。

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術 Ⅱ （調理）	（講義・演習・実習）	上原 尚子

授業の回数	時間数	配当学年・時期
5コマ	10時間	介護福祉科１年

[授業の目的・ねらい]

咀嚼や嚥下機能が低下している支援対象者に対し、普段食べている食事（常食）に近い形で食事を提供するための技術を修得する。

[授業全体の内容の概要]

生活支援技術Ⅰ（栄養）で学んだ知識のうち、高齢者に提供する食事を実際に作りその技術を修得する。また、実際に実習を行うことにより、作業手順や効率、調理時のポイントなどを学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

支援を必要とする人物が様々存在し、その支援内容は多種多様であることを知る。
食事内容を個々人で検討し、それを自分達で共同して提供できる形・味にする。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 介護食とその調理に関する基礎知識

2 嚥下機能の低下した対象者に提供する食事の実習 （お粥、ソフト食、ミキサー食） ①

3 嚥下機能の低下した対象者に提供する食事の実習 （お粥、ソフト食、ミキサー食） ②

4 課題対象者に対する食事の作成 ① （試験）

5 課題対象者に対する食事の作成 ② （試験）

[使用テキスト]

プリント

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

各班ごとに対象者を決め、その対象者にあった食事内容を献立作成し、実習する。

完成した、献立と、レポートによって評価する。

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者 内平 八重子
認知症の理解Ⅰ		(講義・演習・実習)	元看護師、社会福祉協議会勤務
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15コマ	30時間	介護福祉科1年 前期	

[授業の目的・ねらい]

認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。

[授業全体の内容の概要]

認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援などについて、座学だけでなく、認知症のある人の生活の様子を視聴覚教材や事例検討を通して理解する。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

・認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取りまく社会的環境について理解する。

・医学的・心理的側面から認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し生活支援を行うための根拠となる知識を理解する。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 認知症とは何か
2 脳のしくみ
3 認知症の人の心理
4 中核症状
5 生活障害の理解
6 BPSDの理解
7 認知症の診断と重症度
8 認知症の原因疾患と症状・生活障害1
9 認知症の原因疾患と症状・生活障害2
10 認知症の治療薬
11 認知症の予防
12 認知症ケアの理念と視点
13 認知症当事者の視点からみえるもの
14 認知所を取り巻く状況 これまで―今―これから
15 まとめ／単位認定試験

[使用テキスト]

最新介護福祉士養成講座
認知症の理解(中央法規)
その他、適宜資料を配布する

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

授業態度	20%
確認テスト	20%
単位認定試験	60%

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者 内平 八重子
認知症の理解Ⅱ		(講義・演習・実習)	元看護師、社会福祉協議会勤務
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15コマ	30時間	介護福祉科2年 前期	

[授業の目的・ねらい]

認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。

[授業全体の内容の概要]

認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援などについて、座学だけでなく、認知症のある人の生活の様子を視聴覚教材や事例検討を通して理解する。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

・認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践が分かる。

・認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する。

・認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援が分かる。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 オリエンテーション(15回の進め方について)／中核症状とBPSD
2 認知症、認知症様症状をきたす主な疾患
3 認知症の発生機序／間違われやすい疾患と症状
4 認知症の検査・診断の理解／薬物療法・非薬物療法・予防
5 パーソン・センタード・ケア／認知症の人への様々なアプローチ
6 認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール
7 認知症の人とのコミュニケーション
8 認知症の人の終末期医療と介護
9 環境づくり
10 家族への支援
11 介護福祉職への支援
12 制度、サービス、機関、地域づくり
13 多職種連携と協働
14 おさらい:中核症状とBPSD／認知症様症状をきたす主な疾患
15 おさらい:間違われやすい疾患と症状／検査・診断・薬物療法・非薬物療法
16 まとめ／単位認定試験

[使用テキスト]

最新介護福祉士養成講座
認知症の理解(中央法規)
その他、適宜資料を配布する

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

授業態度	20%
確認テスト	20%
単位認定試験	60%

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅱ		講義	山﨑年幸　元病院介護福祉士 小田理恵　高齢者福祉施設相談員
授業の駒数	時間数	学科	学年/配当時期
75	150	介護福祉科	１年通年90時間（45駒） ２年通年60時間（30駒）

〔授業の目的・ねらい〕

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

〔授業全体の概要〕

対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、ICFの視点を活かすことの意義を理解し、生活支援の実践根拠について説明できる能力を身につける内容とする。

健康を保持する為の休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につながる内容とする。

人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する内容とする。

介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する内容とする。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

自立に向けた移動に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
自立に向けた身じたくに関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
自立に向けた食事に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
自立に向けた入浴・清潔の保持に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
自立に向けた排泄の介護に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
休息・睡眠の介護に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
人生の最終段階における介護に関する生活支援技術の基本を習得する。
対象者の能力に応じた福祉用具を選択する意義と福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。
生活支援技術の実践の根拠について説明できる能力を身につける。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	自立に向けた移動の介護	生活における移動の意義と目的
2		ICFの視点に基づく移動に関するアセスメント
3		移動に関する人体の構造と年齢・環境による変化
4		移動に支援を要する病態①
5		移動に支援を要する病態②
6		ボディメカニクス
7		関節の可動域と各種体位・体位変換
8		移乗・移動に用いる福祉用具（装具）や機器
9		ベッド上での水平移動の支援
10		ベッド上での起き上がりの支援・安定した座位姿勢
11		利用者の状態・状況に応じた移乗介助の留意点
12		端座位から立位への移乗介助・安定した立位姿勢
13		歩行動作の確認・歩行介助、T字杖を使用した歩行介助
14		車いすの種類・構造と選び方
15		車いす不適合によるリスク、正しいポジショニング
16		介助による車いすへの移乗・移動
17		自力による車いすへの移乗・移動
18		他職種の役割と協働
19	自立に向けた身じたくの介護	身じたくの意義と目的

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅱ		講義	山﨑年幸　元病院介護福祉士 小田理恵　高齢者福祉施設相談員
授業の駒数	時間数	学科	学年/配当時期
75	150	介護福祉科	１年通年90時間（45駒） ２年通年60時間（30駒）

20		ICFの視点に基づく身じたくに関するアセスメント
21		皮膚の構造と役割、年齢・環境による変化
22		洗面、整髪、ひげの手入れ、爪切り、化粧などの介助①
23		洗面、整髪、ひげの手入れ、爪切り、化粧などの介助②
24		口腔・歯の構造としくみ、年齢・環境による変化
25		口腔ケア
26		利用者の状態・状況に応じた身じたくの介助の留意点
27		装いの意義・楽しみ、衣服の着脱介助①
28		装いの意義・楽しみ、衣服の着脱介助②
29		他職種の役割と協働
30	自立に向けた食事の介護	食事の意義と目的
31		栄養に関する基礎知識
32		ICFの視点に基づく食事に関するアセスメント（摂食・嚥下）
33		食事の準備（環境整備）と食事姿勢
34		食事介助①（座位姿勢・一部介助）
35		食事介助②（ベッド上・全介助）
36		食事介助③（視覚障害のある場合）
37		食事の自立と自助具
38		他職種の役割と協働
39	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	入浴・清潔保持の意義と目的
40		ICFの視点に基づく入浴・清潔保持に関するアセスメント
41		浴室環境の準備と入浴中の生理的変化・入浴後の観察
42		利用者の状態・状況に応じた入浴介助の留意点（福祉用具）
43		機械浴の手順と介助①
44		機械浴の手順と介助②
45		一般浴の手順と介助①
46		一般浴の手順と介助②
47		シャワー浴の手順と介助
48		全身清拭の手順と介助
49		手浴・足浴の手順と介助
50		洗髪の手順と介助
51		入浴に関連して起こりやすい事故と対応
52		他職種の役割と協働
53	自立に向けた排泄の介護	排泄の意義
54		ICFの視点に基づく排せつの介護に関するアセスメント
55		泌尿器系の解剖生理としくみ
56		便秘と便失禁
57		尿失禁の分類と対応
58		おむつの種類と構造
59		ポータブルトイレでの排泄の手順と介助
60		おむつ交換の手順と介助①
61		おむつ交換の手順と介助②
62		尿器・便器の使用方法と介助
63		他職種の役割と協働
64	自立に向けた休息・睡眠の介護	休息・睡眠の意義と目的
65		ICFの視点に基づく休息・睡眠の介護に関するアセスメント
66		睡眠の種類とパターン、不眠の原因
67		安眠の為の介護

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅱ		講義	山﨑年幸　元病院介護福祉士 小田理恵　高齢者福祉施設相談員
授業の駒数	時間数	学科	学年/配当時期
75	150	介護福祉科	１年通年90時間（45駒） ２年通年60時間（30駒）

68	温罨法と冷罨法
69	他職種の役割と協働
70 終末期の介護	終末期における介護の意義と目的
71	ICFの視点に基づく終末期の介護に関するアセスメント
72	終末期における介護
73	臨終時の対応
74	グリーフケア
75	他職種の役割と協働

〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座」 中央法規	〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物
〔参考文献〕	

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　上栗　哲男
児童福祉論	（講義・演習・実習）	児童養護施設理事長

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	介護福祉科2年

［授業の目的・ねらい］
「児童の最善の利益」を探求していきたい

［授業全体の内容の概要］
テキストを中心に児童の福祉の現状を現場（施設）のケースを紹介しながら概観したい

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
「児童最優先」が理解できること

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］
コマ数

1 児童福祉の理念
児童福祉の発展
2 子どもと家庭の権利保障
現代社会と児童家庭福祉問題
3 子ども家庭支援サービス
社会的養護と自立支援サービス
4 児童福祉の法体系
児童福祉の実施体制
5 児童福祉の財政
母子保健
6 障害児の福祉
児童健全育成
7 保育
保護を要する児童の福祉
8 児童虐待対策
ドメスティック・バイオレンスへの対応
9 ひとり親家庭の福祉
子育て支援
10 児童福祉と専門職
児童福祉機関・施設と専門職
11 関連分野の組織・機関
相談援助活動
12 施設ケアと児童福祉援助活動
地域援助活動
13 ケース紹介1（ビデオ）
14 ケース紹介2（ビデオ）
15 試験・まとめ

［使用テキスト］
最新保育士養成講座　第3巻
子ども家庭福祉
全国社会福祉協議会

［参考文献］
社会福祉援助技術
北大路書房

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　河野ひろ子	
発達と老化の理解		講義	元　病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
30	60	介護福祉科	1	通年

〔授業の目的・ねらい〕

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。

〔授業全体の概要〕

発達と老化の理解では、介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

①人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できる。

②老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できる。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	人間の成長と発達の基礎的理解	人間の成長と発達－－－導入
2		人間の成長と発達の原則　影響する因子
3		発達理論
4		人間の発達段階と発達課題
5		形態的成長　心理的・社会的機能の発達
6		発達段階別にみた特徴的な疾病や障害
7	老年期の特徴と発達課題	老年期の定義と特徴
8		老年期の発達課題①
9		老年期の発達課題②
10	老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化とは　老化の特徴
11		老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響①脳神経系
12		老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響②
13		老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響③
14		老化に伴う精神機能の変化と生活への影響
15		老化に伴う社会的機能の変化と生活への影響
16	高齢者と健康	健康長寿に向けての健康
17		サクセスフルエイジング
18	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点	高齢者に多い症状・疾患の特徴
19		老年症候群
20		高齢者に多い代表的な疾患　生活習慣病について
21		高齢者に多い代表的な疾患レポート発表①脳神経系
22		高齢者に多い代表的な疾患レポート発表②運動器系
23		高齢者に多い代表的な疾患レポート発表③循環器系
24		高齢者に多い代表的な疾患レポート発表④呼吸器系
25		高齢者に多い代表的な疾患レポート発表⑤糖尿病等
26		高齢者に多い代表的な疾患　悪性新生物
27		高齢者に多い代表的な疾患　精神疾患
28		高齢者に多い代表的な疾患　感染症その他
29	保健・医療職との連携	保健・医療職との連携の必要性
30	まとめ	総復習

<table>
<tr><td colspan="2">科目名
発達と老化の理解</td><td>授業の種類
講義</td><td colspan="2">授業担当者　河野ひろ子
元　病院・高齢者施設看護師</td></tr>
<tr><td>授業の駒数
30</td><td>時間数
60</td><td>学科
介護福祉科</td><td>学年
1</td><td>配当時期
通年</td></tr>
<tr><td colspan="5">単位認定試験</td></tr>
<tr><td colspan="3">〔使用テキスト〕
「最新介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解」
（中央法規出版）
〔参考文献〕
「最新介護福祉全書」メヂカルフレンド社</td><td colspan="2">〔単位認定の方法及び基準〕
・学則に定めるとおり
・レポート等の提出物</td></tr>
</table>

授 業 概 要

障害の理解		講義	元　病院・介護施設　看護師	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
30	60	介護福祉科	1	通年

〔授業の目的・ねらい〕

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

〔授業全体の概要〕

障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基本的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、他職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

①障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。
②医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。
③障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができる。
④障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる。
⑤障害のある人を支える家族の課題とその支援について理解できる。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	障害の基礎的理解	障害の概念
2		障害者福祉の基本理念
3		障害者福祉に関連する制度
4	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	障害者の原因　障害別数の推移
5		障害のある人の心理
6		肢体不自由（脳血管障害）
7		肢体不自由（ALS・パーキンソン病・脊髄損傷）
8		肢体不自由（脳性麻痺・筋原性疾患）
9		肢体不自由（運動器の障害）
10		精神障害の基礎的理解
11		精神障害者の心理的特徴と支援
12		高次脳機能障害
13		知的障害・発達障害
14		重症心身障害
15		前半の復習　まとめ
16	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	視覚障害の医学的理解
17		視覚障害の生活の理解（点字・日常生活への支援）
18		視覚障害の生活の理解（盲導犬）
19		聴覚・平衡障害
20		音声・言語・嚥下障害
21		内部障害（心臓・呼吸器）
22		内部障害（腎臓・膀胱・直腸機能）
23		内部障害（肝臓・免疫機能）
24		難病の定義　種類と特性
25	障害のある人の生活と支援	障害者の就労
26		障害者スポーツ
27	連携と協働	地域におけるサポート体制
28		多職種連携と協働
29	家族への支援	障害を持つ人の家族の状況と支援

授 業 概 要

障害の理解		講義	元　病院・介護施設　看護師	
授業の駒数 30	時間数 60	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 通年
30 全体のまとめ 単位認定試験		全体の復習		
〔使用テキスト〕 「介護福祉学4　障害の理解」主婦の友社		〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物		
〔参考文献〕 「最新介護福祉全書」メヂカルフレンド社				

科目名	授業の種類	授業担当者　河野　ひろ子
こころとからだのしくみⅡ	（講義・演習）	元　病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15回	30時間	介護福祉科2年

［授業の目的・ねらい］

介護実践に必要となる心身の構造や機能および発達段階とその課題について振り返り、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を総合的にと捉えるための知識を身につける。

［授業全体の内容の概要］

1 介護サービスを必要としている人々の多様なニーズに応えるための根拠となる知識を習得する
2 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援をを行うために必要となる知識を習得する

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1 身体構造・生理機能の理解
2 「睡眠」「人生の最終段階」のこころとからだのしくみを理解し、個々に応じた介護の根拠が理解できる
3 高齢者の理解と主な疾患、症状が理解できる

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数		
1	復習	「身体構造」
2		「呼吸・循環器系」
3		「移動・身じたく」
4		「食事・入浴・排泄」
5	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	休息・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識
6		休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ
7		機能低下・障害の原因と及ぼす影響
8	人生の最終段階のケアに関連した	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方
9	こころとからだのしくみ	終末期から危篤状態、死後のからだの理解
10		「死」に対するこころの理解
11		終末期における医療職との連携
12	高齢者の特徴と症状	高齢者の特徴
13		高齢者に多い症状①
14		高齢者に多い症状②
15	まとめ・単位認定試験	

［使用テキスト］

「介護福祉学5上　こころとからだのしくみ」
主婦の友社
「最新介護福祉全書12　こころとからだのしくみ」
メジカルフレンド社

［参考文献］

「からだのしくみ事典」 成美堂出版
［ナーシング・グラフィカ　解剖生理学　人体の構造と機能」 メディカ出版

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅱ	（講義・演習・実習）	河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
30回	60時間	介護福祉科2年・通年

［授業の目的・ねらい］

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護現場で頻度の多いケースのケーススタディを問題基盤型チュートリアルの形式で行う。学生が実際に問題点を抽出しながら、介護計画を作成・発表し、発表内容をチューターを交えてグループディスカッションを行うことにより、介護過程展開の実践力を養う。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 脳血管障害ケースの介護過程について理解する。
2. 認知症ケースの介護過程について理解する。
3. 神経変性疾患ケースの介護過程について理解する。
4. 脊髄損傷ケースの介護過程について理解する。
5. 脳性麻痺ケースの介護過程について理解する。
6. 関節リウマチケースの介護過程について理解する。
7. がんのケースの介護過程について理解する。
8. 心疾患のケースの介護過程について理解する。
9. 呼吸器疾患のケースの介護過程について理解する。
10. ストマや経管栄養のケースの介護過程について理解する。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数			コマ数		
1	介護過程の実践的展開	脳血管障害のアセスメントと立案	16	介護過程の実践的展開	グループディスカッション
2		グループディスカッション	17		神経変性疾患のアセスメントと立案
3		脳血管障害のアセスメントと立案	18		グループディスカッション
4		グループディスカッション	19		脊髄損傷のアセスメントと立案
5		脳血管障害のアセスメントと立案	20		グループディスカッション
6		グループディスカッション	21		脊髄損傷のアセスメントと立案
7		脳血管障害のアセスメントと立案	22		グループディスカッション
8		グループディスカッション	23		脳性麻痺のアセスメントと立案
9		認知症のアセスメントと立案	24		グループディスカッション
10		グループディスカッション	25		関節リウマチのアセスメントと立案
11		認知症のアセスメントと立案	26		グループディスカッション
12		グループディスカッション	27		がんのケースの立案とグループディスカッション
13		認知症のアセスメントと立案	28		心疾患のケースの立案とグループディスカッション
14		グループディスカッション	29		呼吸器疾患のケースの立案とグループディスカッション
15		神経変性疾患のアセスメントと立案	30		ストマや経管栄養のケースの立案とグループディスカッション

［使用テキスト］

「最新介護福祉士養成講座9　介護過程」中央法規出版

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

学則に定める通り

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　河野　ひろ子
介護過程Ⅲ		（講義・演習・実習）	元　病院・高齢者施設看護師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15回	30時間	介護福祉科2年・後期	

［授業の目的・ねらい］

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

1. 介護過程におけるチームアプローチの概要について学習する。
2. 家族に問題があるケースのチームアプローチについて学習する。
3. 終末期の介護過程とチームアプローチについて学習する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 介護過程におけるチームアプローチの概要について理解する。
2. 家族に問題があるケースのチームアプローチについて理解する。
3. 終末期の介護過程とチームアプローチについて理解する。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数		
1	介護過程とチー	介護過程とチームアプローチの実際
2	ムアプローチ	実習での実践内容の報告と評価
3		カンファレンスと介護の役割
4		模擬カンファレンス
5		模擬カンファレンス
6		介護過程における説明と同意
7		介護過程における説明と同意
8		家族に問題があるケースの立案と発表
9		グループディスカッション
10		家族に問題があるケースの立案と発表
11		グループディスカッション
12		終末期の介護過程とチームアプローチ
13		死生観と仲間の存在
14		死後、どのような事柄があるか
15		専門職としてあるべき姿

［使用テキスト］

「最新介護福祉士養成講座9　介護過程」中央法規出版

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
学則に定める通り

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　河野 ひろ子
介護総合演習Ⅱ	（講義・演習・実習）	元　病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
30回	60時間	介護福祉科2年・通年

［授業の目的・ねらい］

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会を設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護実習に向けて心構え、予備知識、動機づけなどの準備を行う。
介護実習中には、実践力を身につけられるよう巡回指導や帰校日を設けて指導を行う。
介護実習後は、十分な振り返りを行うことによって、知識と技術の統合を行い、より効果的な介護実習を行えるようにする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 実習Ⅰの反省から自己の達成課題を設定する。
2. 実習施設の種別、内容、特徴等について理解する。
3. ケアプラン、介護過程の展開について理解する。
4. 施設の立場、事故処理、苦情処理について理解する。
5. 実習後、実習施設からの評価について、知識・技術・態度それぞれの面から反省する。
6. 実習後、事例について介護過程を展開できる。
7. 的確な記録を行うことができる。
8. 介護観を形成する。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数			コマ数		
1	参加実習における知識と技術の統合	参加実習の目的（夜間実習含む）	16	総合実習における知識と技術の統合	目標と実習計画の立案
2		目標の考え方	17		介護過程の展開方法
3		実習施設の理解	18		記録の目的と方法
4		介護過程の展開方法	19		多職種との連携
5		実習計画の立案	20		緊急時の対応
6		記録の目的と方法	21		心構えと書類確認
7		カンファレンスの目的	22		総合実習の自己評価・お礼状
8		実習の心構えと書類の確認	23		総合実習の学びのまとめ
9		参加実習の自己評価・お礼状	24		実習報告会・学びの共有・深化
10		総合実習の目的	25	介護実践の科学的探究	介護実践の研究の目的
11		参加実習の学びのまとめ	26		研究方法の理解
12		実習報告会	27		研究の進め方・倫理的配慮
13		学びの共有・深化	28		先行研究や文献の活用方法
14		実習記録の再検討	29		論文の作成
15		困難事例の検討・まとめ	30		研究内容の発表

［使用テキスト］

「最新介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習」中央法規出版

［参考文献］

「令和3年度　介護実習の手引き」（広島福祉専門学校）

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

学則に定める通り

授業概要

科目名		授業の種類	授業担当者	
生活支援技術Ⅲ		講義・演習	河野ひろ子　元病院・高齢者施設看護師 崎井　真弓　元病院・高齢者施設看護師 牟田口辰巳　日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ連携科学学会理事 長尾　　博　元宮城教育大学教育学部視覚障害教育教授 日本盲導犬協会からの派遣 広島県障害者療育支援センターから派遣	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
45	90	介護福祉科	1,2	通年

障害や疾病のある人のさまざまな暮らし、さまざまな思いを理解し、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。対象者個々の障害と生活への影響を理解し、生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する。

〔授業全体の概要〕

ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、睡眠の介護等について、各障害・疾病別に学ぶ。

各障害・疾病の詳しい原因や症状、治療、制度的な位置づけについては、「障害の理解」で学び、具体的にどのような生活上の困りごとが生じるのか、その困りごとに対して、介護福祉士としてどのようなかかわりができるのかを学ぶ。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

①障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解する。(障害の理解の復習)
②障害や疾病のある人の生活上の困りごとを理解できる。
③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解できる。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術	障害や疾病とともに生活する人の背景の理解 生活支援を行う意義(目的)
2	運動機能障害のある人の生活支援技術	運動機能障害の医学的・心理的理解、困りごとの理解
3		四肢麻痺の生活支援(移動・移乗)
4		四肢麻痺の生活支援(排せつ、食事)
5		自助具を用いた支援(関節リウマチ・脊髄損傷)
6		運動機能障害のある人の支援の実際(事例)
7	視覚障害のある人の生活支援技術	視覚障害の医学的・心理的理解、困りごとの理解
8		視覚障害の移動援助　外出援助
9		視覚障害の食事介助
10	聴覚障害のある人の生活支援技術	聴覚障害の医学的・心理的理解
11		聴覚・言語障害のある人の理解
12		聴覚障害のある人の生活を支える情報機器について
13		聴覚障害のある人から学ぶ①
14		聴覚障害のある人から学ぶ②
15	重複障害のある人の生活支援技術	盲ろう重複障害のある人の理解(ヘレンケラー自伝より)
16	内部障害のある人の生活支援技術	心臓機能障害に応じた生活支援技術
17		呼吸器機能障害に応じた生活支援技術
18		腎臓機能障害に応じた生活支援技術

授業概要

科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅲ	講義・演習	河野ひろ子　元病院・高齢者施設看護師 崎井　真弓　元病院・高齢者施設看護師 牟田口辰巳　日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ連携科学学会理事 長尾　　博　元宮城教育大学教育学部視覚障害教育教授 日本盲導犬協会からの派遣 広島県障害者療育支援センターから派遣

授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
45	90	介護福祉科	1,2	通年

19		膀胱・直腸機能障害に応じた生活支援技術
20		小腸機能障害に応じた生活支援技術
21		HIVによる免疫機能障害に応じた生活支援技術
22		肝臓機能障害に応じた生活支援技術
23	発達障害のある人の生活支援技術	知的障害を伴う発達障害のある人の生活支援技術
24		知的障害を伴わない発達障害のある人の生活支援技術
25	精神障害のある人の生活支援技術	事例（統合失調症・気分障害）で学ぶ生活支援の実際
26		高次脳機能障害のある人の生活支援技術
27	難病の人の生活支援技術	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の人の生活支援の実際
28		パーキンソン病の人の生活支援の実際
29		筋ジストロフィーの人の生活支援の実際
30		まとめ　筆記試験
31	医療的生活支援技術	医行為でないとされる11項目について
32		バイタルサインとパルスオキシメーターの測定①
33		バイタルサインとパルスオキシメーターの測定②
34		創傷の処置とガーゼ交換①
35		創傷の処置とガーゼ交換②
36		服薬に関する支援①
37		服薬に関する支援②
38		服薬に関する支援③
39		清潔に関する支援①爪きり　口腔ケア
40		清潔に関する支援②耳垢の除去
41		排せつに関する支援①
42		排せつに関する支援②パウチにたまった排泄物の除去
43		排せつに関する支援③自己導尿
44		総復習
45		まとめ　筆記試験

〔使用テキスト〕
「最新介護福祉全書　障害別生活支援技術」

〔参考文献〕
「介護福祉士養成講座」中央法規

〔単位認定の方法及び基準〕
・学則に定めるとおり
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅰ	（講義・演習・実習）	崎井 真弓 元 病院看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
3回	6時間	介護福祉科1年 前期

［授業の目的・ねらい］

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

身じたくと家事に関する利用者のアセスメント、生活習慣と装いの楽しみ、衣生活の調整能力、状態・状況に応じた身じたくと家事の留意点について学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

身じたくと家事に関する利用者のアセスメント、生活習慣と装いの楽しみ、衣生活の調整能力、状態・状況に応じた身じたくと家事の留意点について理解する。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数		
1	自立に向けた身じたくと家事に関する介護	衣服の基本的知識
2		衣生活の介護の技法 衣服の洗濯と手入れ
3		家事の介護 衣服の衛生管理
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

［使用テキスト］

「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

学則に定める通り

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅠ	（講義・演習）	崎井　真弓 元病院　看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15回	30時間	介護福祉科1年

［授業の目的・ねらい］

解剖学、生理学、運動学、心理学等をもとに、人が生活する上でこころとからだはどのようにはたらくのかを示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を習得する。さらに疾病の発生メカニズムを学ぶことにより、「予防の視点」を身につけることができ、介護福祉士として利用者にかかわる際の健康を意識した支援を実践する根拠が理解できる。

［授業全体の内容の概要］

介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を習得する。機能低下・障害が及ぼす日常生活への影響を理解し、根拠に基づいた支援の考え方を理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1　健康の定義と障害との関係が理解できる。
2　脳の構造を理解し、こころの動きが理解できる。
3　人体の解剖・生理が理解できる。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数		
1	健康とは	健康とは何か
2	こころのしくみの理解	こころとは何か
3		こころと高次脳機能
4		意識のしくみ
5		情動・記憶・学習のしくみ
6		人間の欲求の基本的理解・適応と適応機制
7	まとめ・単元認定試験	
8	からだのしくみの理解	からだの成り立ちの理解
9		人体構造　①脳・神経系
10		人体構造　②骨格・筋系
11		人体構造　③呼吸器系
12		人体構造　④循環器系
13		人体構造　⑤消化器系
14		人体構造　⑥腎・泌尿器系
15	まとめ・単位認定試験	

［使用テキスト］

「介護福祉学5上　こころとからだのしくみ」
主婦の友社
「新・介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ」 中央法規

［参考文献］

「からだのしくみ事典」 成美堂出版
ナーシング・グラフィカ　解剖生理学　人体の構造と機能」 メディカ出版

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅡ		（講義・演習）	崎井 真弓 元病院 看護師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
30回	60時間	介護福祉科1年	

［授業の目的・ねらい］

解剖学、生理学、運動学、心理学等をもとに、人が生活する上でこころとからだはどのようにはたらくのかを示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を習得する。さらに疾病の発生メカニズムを学ぶことにより、「予防の視点」を身につけることができ、介護福祉士として利用者にかかわる際の健康を意識した支援を実践する根拠が理解できる。

［授業全体の内容の概要］

1 生命活動を維持する機能・恒常性が理解できる
2 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する
3 医療職との連携の必要性が理解できる。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1 生命を維持する機能が理解できる
2 「移動」「身じたく」「食事」「入浴・清潔」「排泄」のしくみが理解できる
3 人体各部の機能低下・障害が及ぼす影響とその対処方法が理解できる
4 医療職との連携時の観察ポイントが理解できる

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数		
1	生命活動を維持するしくみ	恒常性の維持
2		自律神経
3		呼吸と循環
4		バイタルサイン測定の意義
5		演習-1 バイタルサイン測定
6		演習-2 バイタルサイン測定
7		ストレスに対抗するしくみ・防御システム
8		まとめ・単元試験
9	移動に関連したこころとからだのしくみ	移動に関連したこころとからだの基礎知識
10		移動に関連したこころとからだのしくみ
11		演習-3 安定した姿勢
12		機能低下・障害の原因と及ぼす影響
13		こころとからだの変化の気づきと医療職との連携
14	身じたくに関連したこころとからだの	身じたくに関連したこころとからだの基礎知識
15	しくみ	身じたくに関連したこころとからだのしくみ
16		感覚器の理解
17		機能低下・障害の原因と及ぼす影響
18		まとめ・単元試験
19	食事に関連したこころとからだの	食事に関連したこころとからだの基礎知識
20	しくみ	食事に関連したこころとからだのしくみ
21		機能低下・障害の原因と及ぼす影響
22		演習-4 摂食・嚥下の方法
23	入浴・清潔に関連したこころとからだの	入浴・清潔に関連したこころとからだの基礎知識
24	しくみ	入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ
25		機能低下・障害の原因と及ぼす影響
26	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄に関連したこころとからだの基礎知識
27		排泄に関連したこころとからだのしくみ
28		こころとからだの変化の気づきと医療職との連携
29		演習-5 排泄の方法
30		まとめ・単位認定試験

授 業 概 要

<table>
<tr><td colspan="2">科目名
こころとからだのしくみⅡ</td><td>授業の種類
（講義・演習）</td><td>授業担当者　﨑井　真弓
元病院　看護師</td></tr>
<tr><td>授業の回数
30回</td><td>時間数
60時間</td><td colspan="2">配当学年・時期
介護福祉科１年</td></tr>
<tr><td colspan="3">[使用テキスト]
「介護福祉学5上　こころとからだのしくみ」
主婦の友社
「新・介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ」 中央法規</td><td rowspan="2">[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物</td></tr>
<tr><td colspan="3">[参考文献]
「からだのしくみ事典」 成美堂出版
ナーシング・グラフィカ　解剖生理学　人体の構造と機能」 メディカ出版</td></tr>
</table>

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　﨑井　真弓	
医療的ケアⅠ		講義・演習	元　病院看護師	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
34	50	介護福祉科	2	通年

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

〔授業全体の概要〕

1　医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解する。
2　喀痰吸引について根拠に基づく手段が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する。
3　経管栄養について根拠に基づく手段が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

1　医療的ケアの必要性が理解できる。
2　喀痰吸引について基礎的な知識、実施手順方法を習得する。
3　経管栄養について基礎的な知識、実施手順方法を習得する。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	医療的ケア実施の基礎	なぜ医療的ケアを学ぶのか
2		医療的ケアを学び、実施するに至った経緯
3		個人の尊厳と自立
4		医療の倫理
5		保健医療に関する制度
6		医行為に関する法律
7		チーム医療と介護職員との連携
8		ヒヤリハット報告とアクシデント報告
9		演習　救急蘇生法
10		感染予防
11		療養環境の清潔・消毒法
12		滅菌と消毒
13		健康状態の把握
14		急変状態について
15	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」	呼吸のしくみとはたらき
16		呼吸状態の確認
17		喀痰吸引とは
18		喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
19		口腔内吸引・鼻腔内吸引の手順と留意点
20		人工呼吸器と吸引
21		気管カニューレ内部の吸引の手順と留意点
22		子どもの吸引と吸引に伴うケア
23		喀痰吸引により生じる危険、発生時の対応・対策
24		記録および報告
25	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」	消化器系のしくみとはたらき
26		経管栄養とは
27		経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
28		栄養剤に関する知識
29		経管栄養実施により起こりうる異常

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　﨑井　真弓	
医療的ケアⅠ		講義・演習	元　病院看護師	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
34	50	介護福祉科	2	通年

30	胃ろう経管栄養・経鼻経管栄養の手順と留意点
31	子どもの経管栄養と経管栄養に必要なケア
32	経管栄養に関係する感染と予防
33	経管栄養により生じる危険、発生時の対応・対策
34	記録および報告
単位認定試験	

〔使用テキスト〕
「介護福祉士養成テキスト第４巻　医療的ケア」
法律文化社

〔参考文献〕
「最新介護福祉全書」メヂカルフレンド社

〔単位認定の方法及び基準〕
・学則に定めるとおり
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　﨑井　真弓	
医療的ケアⅡ		演習	元　病院看護師	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
7	10	介護福祉科	2	通年

〔授業の目的・ねらい〕
医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

〔授業全体の概要〕
安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得する。各手技について、定められた回数の演習を行ったのち、実技試験を行い、合格とする。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕
1　口腔内吸引が正確にできる。
2　鼻腔内吸引が正確にできる。
3　気管カニューレ内部の吸引が正確にできる。
4　胃ろう経管栄養が正確にできる。
5　経鼻経管栄養が正確にできる。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	喀痰吸引法	口腔内吸引・鼻腔内吸引練習
2		口腔内吸引・鼻腔内吸引練習
3		口腔内吸引・鼻腔内吸引試験
4		気管カニューレ内部の吸引練習・試験
5	経管栄養法	胃ろう経管栄養練習
6		胃ろう経管栄養試験
7		経鼻経管栄養練習・試験
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔使用テキスト〕
「介護福祉士養成テキスト第4巻　医療的ケア」
法律文化社

〔参考文献〕
「最新介護福祉全書」メヂカルフレンド社

〔単位認定の方法及び基準〕
・学則に定めるとおり
・レポート等の提出物

授業概要

科目名	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術	（講義・演習）	手話通訳士　澤田祥子

授業の回数	時間数	配当学年・時期
5コマ	10時間	介護福祉科1年

［授業の目的・ねらい］

聴覚障害を正しく理解する・初歩的な手話でのコミュニケーションが取れる

［授業全体の内容の概要］

・講義（聴覚障害への知識　福祉制度　生活環境　聴覚障害心理等

・実技演習（初歩的な手話の習得　手話で簡単なコミュニケーション演習）

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

聴覚障害を正しく理解する

身の回りのことが手話で話せる。初歩的な手話でのコミュニケーションが取れる

聴覚障害者の気持ちを察することが出来る

［授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数

1 講義：コミュニケーション方法と留意点　実技：テキスト1講座・2講座

2 講義：聴覚障害の基礎知識（機能障害）　実技：テキスト3講座

3 講義：聴覚障害者福祉制度　実技：テキスト4講座・5講座

4 講義：聴覚障害児教育　実技：テキスト6講座・7講座

5 まとめ（実技試験・筆記試験）

［使用テキスト］

ひろしま手話学習のてびきⅤ

聞こえない人とのコミュニケーション

～手話学習編～

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　野村　裕之	
介護の基本Ⅰ		講義	元　病院介護福祉士	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
50	100	介護福祉科	1	通年

〔授業の目的・ねらい〕

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

〔授業全体の概要〕

1.複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を学習する。2.地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を学習する。3.介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を学習する。4.ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を学習する。5.介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを学習する。6.介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を学習する。7.多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を学習する。8.介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を学習する。9.介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について学習する。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割の機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、多職種連携に関して、介護実践の基盤となる知識を理論的に理解する。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒			
1	介護とは（介護の歴史）	26	介護計画の展開
2	介護とは（介護問題の背景）	27	自立支援とリハビリテーション
3	介護福祉の基本理念	28	リスクマネジメント
4	介護福祉の定義と理念①	29	介護における感染症の対応
5	介護福祉の定義と理念②	30	感染症対策
6	介護福祉の理念	31	健康管理の意義と目的
7	介護福祉の原則①	32	からだの健康管理
8	介護福祉の原則②	33	こころの健康管理
9	介護福祉養成カリキュラムの特徴	34	労働環境の整備
10	単元末まとめ①	35	単元末まとめ③
11	単元末試験①	36	単元末試験③
12	介護福祉の倫理①	37	ノーマライゼーション
13	介護福祉の倫理②	38	就労に関する支援
14	介護を必要とする人の理解（高齢者）	39	社会参加
15	介護を必要とする人の理解（障害者）	40	多国間協力と今後の介護
16	フォーマルとインフォーマル	41	インフォーマルサポートの役割
17	地域連携	42	障害者を取り巻く制度①
18	多職種連携・協働の必要性	43	障害者を取り巻く制度②
19	関連領域の役割（社会福祉士）	44	障害者を取り巻く制度③
20	関連領域の役割（保健師・助産師・看護師）	45	高齢者を取り巻く制度①
21	関連領域の役割（リハビリテーション）	46	高齢者を取り巻く制度②
22	単元末まとめ②	47	高齢者を取り巻く制度③
23	単元末試験②	48	介護の基本まとめ①
24	自立支援とは	49	介護の基本まとめ②

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　野村　裕之	
介護の基本Ⅰ		講義	元　病院介護福祉士	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
50	100	介護福祉科	1	通年

25 ICFの活用	50　　単位認定試験・まとめ

〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座３　介護の基本Ⅰ」 「最新介護福祉士養成講座４　介護の基本Ⅱ」 （中央法規出版）	〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物
〔参考文献〕	

授 業 概 要

授業の科目名	授業の種類	授業担当者　野村　裕之
介護の基本Ⅱ	講義・演習	元病院介護福祉士

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15 コマ	30 時間	介護福祉科2年　前期

【授業の目的・ねらい】

「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。さらに、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。

【授業全体の内容の概要】

1. 介護福祉の施設・在宅における活動の場を学習する。2. 介護サービス提供のしくみと多職種・地域連携を学習する。3. 介護における安全の意義とリスクマネジメントを学習する。4. 施設・在宅における安全対策と感染予防を学習する。5. 介護従事者の健康と安全を学習する。

【授業終了時の達成課題】

1. 介護福祉の施設・在宅における活動の場を習得する。2. 介護サービス提供のしくみと多職種・地域連携を習得する。3. 介護における安全の意義とリスクマネジメントを習得する。4. 施設・在宅における安全対策と感染予防を習得する。5. 介護従事者の健康と安全を習得する。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1.　オリエンテーション　講
　第9章　介護福祉の活動の場　在宅における介護福祉
2.　介護老人福祉施設における介護福祉　講
3.　障害児・者福祉施設における介護福祉　講
4. 第 10 章　介護福祉サービスの提供のしくみ　講
　介護サービス提供のしくみと多職種連携
5.　地域連携　講
6. 第 11 章　介護における安全の確保　講
7.　介護領域におけるリスクマネジメント　講
8.　在宅における安全対策　講
9.　施設における安全対策　講
10.　感染予防と管理　講
11.第 12 章　介護従事者の健康と安全　講
　身体の健康管理
12.　心の健康管理　講
13.　労働安全対策　講
14.第 13 章　介護福祉に関する諸課題　講
15.　まとめ・試験　試

【使用テキスト】

「最新介護福祉士養成講座4　介護の基本Ⅱ」
（中央法規出版）

【参考文献】

【単位認定の方法および基準】

筆記試験および出席状況、授業態度、レポート等の提出物を総合的に勘案し、評価する。評価基準は学則に定める通り。

科目名	授業の種類	授業担当者　藤田　玖味子
コミュニケーション技術	（講義・演習・実習）	元精神障害者就労促進事業

授業の回数	時間数	配当学年・時期
30コマ	60時間	介護福祉科　1年

［授業の目的・ねらい］

介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種共働におけるコミュニケーション能力を身につける学習とする。

［授業全体の内容の概要］

1 コミュニケーションとは何かについて学習する。
2 言語コミュニケーションについて学習する。
3 非言語コミュニケーションについて学習する。
4 面接技法について学習する。
5 利用者、家族との円滑なコミュニケーションについて学習とする。
6 職場や多職種共働における円滑なコミュニケーションについて学習とする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1 コミュニケーションとは何かについて理解する。
2 言語・非言語コミュニケーションについて理解する。
3 利用者、家族との、あるいはスタッフ間の円滑なコミュニケーションについて理解する。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数
1 オリエンテーション「介護現場での予想される不安・・・コミュニケーションが取れるだろう？
2 介護におけるコミュニケーションの基本　Ⅰ．意義・目的・役割
3　Ⅱ．利用者・家族との関係づくり
4　〃
5　Ⅲ．敬語の使い方の基本
6　〃
7 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションⅠ．障害のある利用者との基本
8　〃
9 Ⅱ．利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際
10　〃
11　〃
12　〃
13　〃
14 介護におけるチームのコミュニケーション　Ⅰ．記録による情報の共有化
15　〃
16　〃
17　〃　Ⅱ．報告と申し送り
18　〃
19　〃　Ⅲ．会議
20　〃
21 利用者・家族とのコミュニケーションの実際　Ⅰ．受け止めるコミュニケーション
22　〃
23　〃
24　Ⅱ．利用者の心に変化を与えるコミュニケーション
25　〃
26　Ⅲ．ケアの現場から学ぶ「こんなときどうする？」
27　〃
28　Ⅳ．家族とのコミュニケーション
29　〃
30 テスト（テスト60分、まとめ・解説30分）

［使用テキスト］
「コミュニケーション技術」（中央法規）

［参考文献］
「介護福祉スタッフのためのケア・コミュニケーション」（ウィネット）
「実習生のための対人援助技術」（中央法規）

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者
人間関係とコミュニケーション	（講義・演習・実習）	山﨑 年幸 元 病院介護福祉士

授業の回数	時間数	配当学年・時期
20回	40時間	介護福祉科1年 通年

［授業の目的・ねらい］

対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。

チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

自己理解と他者理解を深めて人間関係につなげていき、人間関係形成のためのコミュニケーション能力を習得する。コミュニケーションの意義を理解する。コミュニケーション能力の基盤となる情報の受け渡しには様々な方法があることを知る。場面や対象に応じて適切な情報の受け渡しの方法を選択できる。その選択した方法を実践できる。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数		
1	人間関係と心理	人間関係の機能、自己覚知と他者理解
2		パーソナリティの発達と人間関係
3		集団のなかの人間関係
4		人間関係とストレス
5	対人関係とコミュニケーション	コミュニケーションの意義・目的
6		コミュニケーションの特性・構造
7		言語的コミュニケーション
8		非言語コミュニケーション
9		コミュニケーションを促す環境
10		アサーティブ
11		ポライトネス
12	コミュニケーションの基礎	物理的・心理的距離の理解
13		基本的態度、受容、共感、傾聴
14		対人援助関係の形成とバイスティックの原則
15		マイクロカウンセリング、感情の転移・逆転移
16	組織におけるコミュニケーション	組織のなかにおけるコミュニケーション
17		組織における情報の流れとネットワーク
18	介護実践におけるチームマネジメ	ヒューマンサービスの特徴・特性
19		現場で求められるチームマネジメントと倫理・専門性
20	人間関係とコミュニケーションのま	人間関係とコミュニケーションのまとめ

［使用テキスト］

最新 介護福祉士養成課程1 人間の理解

中央法規

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

学則の通り

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　山﨑　年幸	
介護総合演習Ⅰ		講義・演習	元　病院介護福祉士	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
30	60	介護福祉科	1	通年

〔授業の目的・ねらい〕
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習を行う。

〔授業全体の概要〕
各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探求を通し、介護実習での学びを探化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習を行う。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕
各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探求を通し、介護実習での学びを探化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習を理解する。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	実習の意義・目的	各領域で学んだ知識と技術の統合
2		介護観の形成
3		介護実習の枠組みと全体像の理解
4	実習施設の理解	実習区分の理解
5		実習施設Ⅰの理解
8	対象者の理解	グループワーク:2～3人のグループにて高齢者の若い頃の遊び・馴染みの曲を学び、理解する
9		グループ発表
10	実習に関する基礎知識	介護実習の意義・目的
11		実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり
12		個人情報の取り扱い
13		コミュニケーション、マナー、接遇について
14	実習に関連する学習(介護実習Ⅰ)	記録:観察記録の方法
15		記録:プロセスレコードの説明と活用法
16		記録:実習関連の記録
17		介護目標設定・個人票・計画表・誓約書の作成
18		事前訪問への指導・事前面接
19		実習の振り返り:自己評価と客観的評価
20		実習のまとめ
21		実習報告会
22	実習施設の理解	実習施設Ⅱの理解
23	実習に関連する学習(介護実習Ⅱ)	実習記録の再検討
24		プロセスレコードの再検討
25		介護目標設定・個人票・計画表・誓約書の作成
26		アセスメント:情報収集の方法
27		実習の振り返り:自己評価と客観的評価
28		実習対象者の検討
29		実習のまとめ
30		実習報告会

〔使用テキスト〕
「最新介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習」
(中央法規出版)

〔参考文献〕

〔単位認定の方法及び基準〕
・学則に定めるとおり
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者 山﨑 年幸 元病院介護福祉士
介護過程Ⅰ		（講義・演習・実習）	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
30回	60時間	介護福祉科1年・通年	

[授業の目的・ねらい]

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

1. ケアプラン、介護過程とは何かについて学習する。
2. 介護過程と看護過程の類似と相違について学習する。
3. ICFの視点について学習する。
4. 介護過程を展開するうえでの介護福祉の法と職業倫理について学習する。
5. 利用者の人権と人格の尊重について学習する。
6. 各アセスメントツールの特徴について学習する。
7. 各利用者の生活について学習する。
8. 社会資源について学習する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

1. ケアプラン、介護過程とは何かについて理解する。
2. 介護過程と看護過程の類似と相違について理解する。
3. ICFの視点について理解する。
4. 介護過程を展開するうえでの介護福祉の法と職業倫理について理解する。
5. 利用者の人権と人格の尊重について理解する。
6. 各アセスメントツールの特徴について理解する。
7. 各利用者の生活について理解する。
8. 社会資源について理解する。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数		
1	介護過程の意義と基本的理解	介護過程とは
2		介護過程の意義
3		生活上の目標と目的
4		アセスメントの意義
5		介護過程とICFの目的
6		ICFの特徴
7		ICFの特徴の構成要素
8		アセスメントに必要な「事実」のとらえ方 活動
9		アセスメントに必要な「事実」のとらえ方 参加
10		アセスメントに必要な「事実」のとらえ方 心身機能
11		アセスメントに必要な「事実」のとらえ方 身体構造
12	介護過程の展開の理解	実習先事例から介護過程を理解する
13		実習先事例から介護過程を理解する
14		アセスメント 情報の解釈・分析
15		アセスメント 課題の明確化
16		アセスメントの視点
17		アセスメントの実際
18		高齢者の生きてきた時代、生活背景を理解する
19		全体像の把握
20		実習事例の情報整理
21		実習事例の展開 アセスメント
22		実習事例の展開 目標の設定
23		実習事例の展開 具体的援助内容
24		実習事例の展開 まとめ
25		事例展開 アセスメント
26		事例展開 目標の設定
27		事例展開 具体的援助内容
28		事例展開 まとめ
29		制度と社会資源
30		試験・まとめ

[使用テキスト]

「最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程」（中央法規出版）
「ICF国際機能分類ー国際障害分類改訂版ー」（中央法規出版）
「介護福祉学 5 こころとからだのしくみ（上）」（主婦の友社）

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
学則の通り

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　山﨑　年幸
介護実習Ⅰ		（講義・演習・実習）	元　病院介護福祉士
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
	45時間	介護福祉科1年・前期	

［授業の目的・ねらい］

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。

本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

地域における様々な場において、介護過程の展開を通して対象者個々の生活リズムや個性が理解できる。
本人・家族との基礎的なコミュニケーションや生活支援を行うことができる。
本人の望む生活に向けて、多職種との協働のなかで、介護過程の実践が重要であることを理解する。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

実習施設・事業所Ⅰ
- 通所介護
- 訪問介護
- 通所リハビリテーション
- 小規模多機能型居宅介護
- 医療型障害児入所施設・療養介護施設
- 認知症対応型共同生活介護

において、実習指導者の指導のもと実習を行う。
実習期間中、週1回以上の巡回指導を行う。

［使用テキスト］

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
学則の通り

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　山﨑　年幸
介護実習Ⅱ		（講義・演習・実習）	元　病院介護福祉士
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
	90時間	介護福祉科1年　後期	

［授業の目的・ねらい］

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。

本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護実践のための基本的な介護技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを学習する。受け持ち利用者の全体像を把握する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

介護実践のための基本的な介護技術が実践できる。
利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを理解する。
受け持ち利用者の全体像を把握する。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

実習施設Ⅱ

介護老人福祉施設
介護老人保健施設
障害者支援施設
広島原爆養護ホーム

において、実習指導者の指導のもと、実習を行う。
実習期間中、週1回以上の巡回指導を行う。

［使用テキスト］

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅲ	（講義・演習・実習）	河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
	135時間	介護福祉科2年 前期

［授業の目的・ねらい］

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種連携や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。

個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。

［授業全体の内容の概要］

一つの施設で一定時間以上継続して実習を行い、利用者ごとの介護計画の作成を行う。
施設のカンファレンス等に参加し、多職種の役割や協働について学ぶ。
日常生活援助を見学し、可能な範囲で体験し、学ぶ。
夜間実習の体験を通して、個々の生活リズムや個別ケアを理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 個々の心身機能に応じた生活を送るために必要な、根拠に基づいた介護実践の重要性が理解できる。
2. 利用者の介護計画の立案ができる。
3. 多職種の役割を理解し、チームの一員として協働すること及び介護福祉士の役割が理解できる。
4. 基本的な日常生活援助を実践することができる。
5. 利用者の24時間の生活と介護実践が理解できる。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

実習先種別

介護老人福祉施設
介護老人保健施設
原爆養護ホーム
障害者支援施設

［使用テキスト］

令和3年度 介護実習の手引き（広島福祉専門学校）

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）

実習の全出席
学則の通り

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅳ	（講義・演習・実習）	河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
	180時間	介護福祉科2年 前期・後期

［授業の目的・ねらい］

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種連携や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。

個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。

［授業全体の内容の概要］

一つの施設で一定時間以上継続して実習を行い、利用者ごとの介護計画の作成・実施・評価・修正を行う。
施設のカンファレンス等に参加し、多職種の役割や協働について学び、チームの一員として協働する。
日常生活援助を見学し、利用者の状況に応じた介護実践を行う。
夜間実習の体験を通して、個々の生活リズムや個別ケアを理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1. 個々の心身機能に応じた生活を送るために必要な、根拠に基づいた介護実践の重要性が理解できる。
2. 利用者の介護計画の立案・実施・評価ができる。
3. 多職種の役割を理解し、チームの一員として協働すること及び介護福祉士の役割が理解できる。
4. 利用者の状況に応じた基本的な日常生活援助を実践することができる。
5. 利用者の24時間の生活の理解と介護実践ができる。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

実習先種別

介護老人福祉施設
介護老人保健施設
障害者支援施設

［使用テキスト］

令和3年度 介護実習の手引き（広島福祉専門学校）

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

実習の全出席
学則の通り

授 業 概 要

科目名	授業の種類	担当者
社会福祉現場実習	（講義・演習・実習）	社会福祉施設実習指導者

授業の回数	時間数	配当学年・時期
	60	介護福祉科　1年　後期

［授業の目的・ねらい］
福祉施設における現場体験を通じて、社会福祉主事として仕事をする上で必要な知識、援助技術への理解を深める。

［授業全体の内容の概要］
実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で、施設に配属する。
実習指導者の指導を受けながら、業務の進め方や記録の方法等について学び、実習施設においてチームの一員として活躍する能力を養う。
利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーション能力を強める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
講義、演習、学校内実習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深める。
社会福祉の知識や技術を実際に活用する。
職業倫理を身につける。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］
コマ数
社会福祉施設において60時間以上の実習を行う。

［使用テキスト］

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
社会福祉現場実習指導の授業および、実習施設における実習評価によって判断する。

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
社会福祉現場実習		（講義・演習・実習）	行政機関実習担当者
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
	30	介護福祉科　2年　後期	

［授業の目的・ねらい］

行政機関における実習を通じて、社会福祉主事として仕事をする上で必要な知識、援助技術への理解を深める。

［授業全体の内容の概要］

・実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で、行政機関に配属する。
・実習指導者の指導を受けながら、業務の進め方や記録の方法等について学び、実習機関においてチームの一員として活躍する能力を養う。
・利用者やその関係者、機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーション能力を強める。
・利用者を理解し、その需要を把握する能力を強める。
・利用者やその関係者への援助の実際を学び、援助の能力を強める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・講義、演習、学校内実習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている
社会福祉の需要に関する理解力、判断力を養う。
・行政機関における相談援助業務の実際を学ぶ。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

行政機関において30時間以上の実習を行う。

［使用テキスト］

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）

社会福祉現場実習指導の授業および、実習機関における実習評価によって判断する。

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

介護保育科　　８５０時間

実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の実務経験
佐々木　尚美	保育・教職実践演習	30	元広島市立幼稚園園長
白石　智枝	保育表現技術演習	30	音楽教室主宰 大学こども学科音楽科目講師 アートスクール音楽家講師として勤務
下西　さや子	専門演習Ⅰ・Ⅱ	30	現　法務省少年院相談員 元　児童養護施設児童指導員
富田　雅子	子育て支援・子育て支援論	30	広島県世羅郡世羅町子育て支援アドバイザー
崎井　真弓	こころとからだのしくみⅡ	30	病院にて看護師として勤務
	医療的ケア	60	
	生活支援技術Ⅲ	20	
	介護総合演習Ⅱ	30	
	介護過程Ⅲ	30	
野村　裕之	介護の基本Ⅱ	30	病院にて介護福祉士として勤務
	生活支援技術Ⅱ	40	
	介護過程Ⅱ	30	
牟田口　辰巳	生活支援技術Ⅲ	2	日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ連携科学会理事 元広島大学大学院教育学研究科特別支援教育講座教授
長尾　　博	生活支援技術Ⅲ	4	元宮城教育大学教育学部視覚障害教育教授
辻　芽衣子	生活支援技術Ⅲ	2	日本盲導犬協会島根あさひ訓練センター普及推進部スタッフ
スポーツ指導員	生活支援技術Ⅲ	2	広島県障碍者リハビリテーションセンタースポーツ交流センターおりづる職員
佐々木　尚美 各実習施設指導者	保育実習Ⅰ	180	実習指導者は保育所・施設にて、実務経験を含めた指導者要件のある人が担当
	保育実習ⅡorⅢ	90	
崎井　真弓 野村　裕之 各実習施設指導者	介護実習Ⅳ	180	実習施設指導者は高齢者福祉施設にて指導者要件のある人が担当（法令上、実習指導者になる要件の一つとして、介護福祉士資格取得後3年以上の実務が必要）
		850	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者 佐々木 尚美
保育・教職実践演習		(講義・演習・実習)	元広島市立幼稚園園長
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15コマ	30時間	介護保育科3年 前期	

[授業の目的・ねらい]
保育所保育指針などから、保育所保育の基本となることを学ぶ。
保育の専門性的基礎を基盤にし、更なる知識・技術の向上と、課題に取り組む意義を学ぶ。
現代社会の変化や、保育環境の変化が、子どもに及ぼす影響を分析し課題を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]
保育の専門的基礎力を基盤に、実践の応用及び現代社会において抱えている諸課題について、積極的に発見・分析・解決能力を養う。
現代社会の抱える保育の諸問題を挙げ具体化したものを、グループで討議し、相互的に学ぶことを理解する。
多様化する社会において「保育者の役割」「個々における育ちを理解と援助方法」「生活と遊び」等が、保育所保育に求められていることを認識し、再構築・協働することの必要性を理解する。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]
保育所保育指針の改定の要点と、各章を読み解き理解する。
保育の専門的基礎力を基に、知識・技能の実践への応用と課題解決の方法を理解する。
子ども・子育て環境の諸問題を抽出し方策を考え、実践に活かす意義を理解する。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]
コマ数
1 「保育」することの意義 ・保育職・教育職の意義と役割 ・保育者の倫理
2 保育者の職務と課題 ・保育者の専門性と倫理観 ・子どもの特性の理解と課題
3 保育者に求められる現状と課題 ・子育て環境の変化 ・児童虐待の現状と対応
4 保育制度と課題 ・国の保育施策 ・子ども・子育て新制度 ・保育制度の課題
5 保育者の保育意識と保育所の役割1 ・ワークライフバランス ・保育ニーズ
6 保育所の保育意識と保育所の役割2 ・保護者の子育て環境 ・保育環境の問題意識
7 保育環境の改善1 ・子どもの安全・安心な環境 ・保育の環境と保育の改善の視点
8 保育環境の改善2 ・子どもの活動と環境 ・環境を通して行う保育
9 総合的な実践1 ・保育者としての保育の基本 ・子どもの見方、捉え方
10 総合的な実践2 ・子どもの内面理解と信頼関係の形成 ・事例から学ぶ
11 総合的な実践3 ・現代社会における幼児教育の問題点 ・多文化共生の保育
12 総合的な実践4 ・子どもを取り巻く食育と実践 ・子どもの体力と運動遊び
13 保育環境の構成 ・創意工夫のある環境構成 ・各年齢に応じた玩具
14 保育者としての向上1 ・全体的な計画の作成・実践 ・保育の省察とカンファレンス
15 保育者としての向上2 ・保育の動向からの施策 ・保育者の研鑽

[使用テキスト]
保育・教職実践演習－保育理論と保育実践の手引き(大学図書出版)
幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック(大学図書出版)
保育所保育指針ガイドブック(学研)

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
(試験やレポートの評価基準など)

試験 60%
態度・積極性 30%
ワークシート・提出物 10%

総合点 100点

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　白石　智枝 元アートスクール音楽科講師 現大学子ども学科音楽科目講師
保育表現技術演習	（講義・演習・実習）	

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	介護保育科　3年

［授業の目的・ねらい］

本授業は、表現活動の援助に必要な基礎知識と技能を習得し、保育者としての表現力を高めることを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

リズム遊び、リトミック、楽器アンサンブルなどの音楽活動の体験を通して、幼児の表現活動の援助方法を学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

リズム遊び、リトミック、楽器アンサンブルなどの音楽活動の体験を通して、幼児の表現活動の援助方法の実践力を高めることを目標とする。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　表現の意義と役割
2　感性と表現
3　身体を使った表現　①体の動きをつかって表現しよう
4　身体を使った表現　②身体の音で表現しよう（ボディーパーカッション）
5　楽器を使った表現　ピアノでアンサンブル（連弾）
6　同上
7　同上
8　同上
9　同上
10　同上
11　楽器を使った表現　教育楽器をつかって合奏作品をつくってみよう
12　同上
13　同上
14　同上
15　音楽アンサンブル発表会

［使用テキスト］

最新保育講座　保育内容「表現」 ミネルヴァ書房

［参考文献］

全国大学音楽教育学会中・四国地区学会　歌う・弾く・表現する保育者になろう　　音楽の友社

石井玲子　実践しながら学ぶ　　保育出版社
高野雅子　表現「幼児音楽」①②　保育出版社

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

授業内での態度、実技試験を総合して評価する。

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　下西　さや子
専門演習Ⅰ・Ⅱ	（講義）	現法務省少年院「命と心の相談員」 元児童養護施設児童指導員

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	介護保育科3年　前期

[授業の目的・ねらい]

現代社会における子育ての現状を理解し、子どもや保護者の子育てを行う環境について学習し、必要とされる保育士の専門性について考える。
保育実習時における子どもを観察する方法や、観点について学ぶ。
保育実習時における子どもや保護者の問題について考察し、保育現場における支援の実際について学び身につけることを目標とする。

[授業全体の内容の概要]

保育・子育て支援について具体的な事例・課題を取り上げながら、演習形式にて調査・分析、問題点整理の方法を学ぶ。また、それらを有機的に関連付けることによって保育実習Ⅰにも備える。保育の現場で「保育」「子育て支援」「多文化の理解」の3つの視点を学生同士で調べたり討論を交えたりしながら学習していく。
保育実習Ⅰを振り返りながら保育実習Ⅱ、Ⅲに備えるとともに、子育て支援のあり方の幅広い可能性に重点を置いて「子どもの専門家」としての職業意識を養う。保育・子育て支援の具体的な事例、課題について、グループで課題を設定し、学習を行うことを通じて、問題解決能力を養う

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

保育実習生としての学ぶ姿勢や観察と記録の重要性について理解し、その技術を学ぶこと、子どもへの関わり方や保育者との関わり方について学ぶことを目標とします。
保育実習時における子どもや保護者の問題について考察し、保育現場における支援の実際について学び身につけることを目標とする。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数
1 子どもの心を理解するための臨床心理学的な視点と方法
2 子どもの心を知る方法としての観察、また、実践改善における記録の重要性について
3 子どもの心を理解するための基本的な考え「カウンセリングマインド」について
4 地域子育て支援センターでの保育実践準備
5 地域子育て支援センターでの保育実践
6 実践編1　保育者による保育の組立について
7 実践編2　保育者による子どもへの対応について
8 実践編3　保育者による保護者への対応及び保護者からの質問について
9 実践編4　実習中の指導・援助について
10 実践編5　実習生・初任者が抱える子どもへの対応のわからなさと園や保育者との関わりかたについて
11 まとめ　これまでの学習を踏まえ、保育における保育臨床相談の有効性を考察する
12 これまでの実習を振り返って自己の課題について考え、グループで解決策について話し合う
13 保育実習時における子どもを観察する方法について観察する際の着眼点に焦点をあてて学ぶ
14 保育実習時における子どもの問題について考察し、実習生としての対応や問題点の解決策について考察する
15 保育現場で行われている様々な支援について知り、その技術について学ぶ

[使用テキスト]
小田　豊　他　保育臨床相談　　北大路書房

[参考文献]
藤崎真知代　他　　育児・保育現場での発達とその支援　ミネルヴァ書房
吉田直子　　他　　子どもの発達心理学を学ぶ人のために　世界思想社

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）
〇授業中の態度、積極性　　総合点の30%
〇提出物の状況　　総合点の10%
〇スクーリング終了試験　　総合点の60%

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　富田　雅子 広島県世羅郡世羅町 子育て支援アドバイザー
子育て支援・子育て支援論	(講義・演習・実習)	

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	介護保育科3年

[授業の目的・ねらい]

1 保育者による子育て支援が求められる社会的状況について理解する
2 子育て支援の理論と原則について理解する
3 保護者支援の原則を理解する
4 子育て支援の実際について学び、内容や方法を理解する
5 保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援の実際について理解する

[授業全体の内容の概要]

保育士の行う支援の特性として、子どもの保育とともに行う保護者の支援、保護者の相互関係や信頼関係の形成、支援のニーズについての気づきと多面的理解、子どもと保護者が関わる機会や場を提供することなどを学ぶ。
支援の展開として、子どもと保護者の状況・状態の把握、支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録、職員間、関係機関との連携・協働を学ぶ。
多様な支援ニーズを抱える子どもと家族について学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

1 子育て支援は「子どもの最善の利益」を目指して行う取り組みであることを理解する
2 子育て支援において保育の専門家である保育者の専門性が生かされることを理解する
3 保護者との信頼関係の形成のために、保護者に共感し、保護者を受容することが重要であることを理解する
4 保護者からの相談の中で知りえた個人情報等の秘密保持は専門家としての倫理であることを学ぶ
5 子育て支援において関係機関と連携し協力することが必要であることを理解する
6 保護者の特性、子どもの特性、さらに保育者の援助の構えのあり方などにより、子育て支援が困難な場合があることを考える

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 オリエンテーション、子育て支援とは
2 子育て支援の意義
3 子育て支援の基本①　子どもの最善の利益
4 子育て支援の基本②　保育の場の持つ特性と、保育者の専門性を生かすこと
5 子育て支援の基本③　保護者に対する子育て支援とは、保護者の養育力の向上を目指して取り組むこと
6 子育て支援の基本④　保護者との信頼関係の形成、共感・受容
7 子育て支援の基本⑤　保護者の自己決定の尊重と秘密保持
8 子育て支援の基本⑥　関係機関との連携・協力
9 子育て支援の実際①　子育て支援における保育環境の活用
10 子育て支援の実際②　相互理解や交流を深める
11 子育て支援の実際③　安心感や親としての自尊心を支える
12 保育者の子育て支援における葛藤①　子育て支援の困難性
13 保育者の子育て支援における葛藤②　保護者の特性や子どもの発達上の課題と子育て支援
14 保育者の子育て支援における葛藤③　保育者の援助の構えや保育システムの特性と子育て支援
15 まとめ(子どもの最善の利益を保証することとは)、試験

[使用テキスト]

『保育の専門性を生かした子育て支援』亀崎美沙子
わかば社

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
(試験やレポートの評価基準など)

出席状況
授業態度
試験

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　﨑井　真弓
こころとからだのしくみⅡ		（講義・演習）	元病院看護師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15回	30時間	介護保育科3年	

［授業の目的・ねらい］

介護実践に必要となる心身の構造や機能および発達段階とその課題について振り返り、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を総合的にと捉えるための知識を身につける。

［授業全体の内容の概要］

1 介護サービスを必要としている人々の多様なニーズに応えるための根拠となる知識を習得する
2 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援をを行うために必要となる知識を習得する

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1 身体構造・生理機能の理解
2 「睡眠」「人生の最終段階」のこころとからだのしくみを理解し、個々に応じた介護の根拠が理解できる
3 高齢者の理解と主な疾患、症状が理解できる

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数		
1	復習	「身体構造」
2		「呼吸・循環器系」
3		「移動・身じたく」
4		「食事・入浴・排泄」
5	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	休息・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識
6		休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ
7		機能低下・障害の原因と及ぼす影響
8	人生の最終段階のケアに関連した	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方
9	こころとからだのしくみ	終末期から危篤状態、死後のからだの理解
10		「死」に対するこころの理解
11		終末期における医療職との連携
12	高齢者の特徴と症状	高齢者の特徴
13		高齢者に多い症状①
14		高齢者に多い症状②
15	まとめ・単位認定試験	

［使用テキスト］

「介護福祉学5上　こころとからだのしくみ」
主婦の友社
「最新介護福祉全書12　こころとからだのしくみ」
メジカルフレンド社

［参考文献］

「からだのしくみ事典」 成美堂出版
［ナーシング・グラフィカ　解剖生理学　人体の構造と機能」 メディカ出版

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　﨑井　真弓	
医療的ケアⅠ		講義・演習	元　病院看護師	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
34	50	介護保育科	2,3	通年

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

〔授業全体の概要〕

1　医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解する。
2　喀痰吸引について根拠に基づく手段が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する。
3　経管栄養について根拠に基づく手段が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

1　医療的ケアの必要性が理解できる。
2　喀痰吸引について基礎的な知識、実施手順方法を習得する。
3　経管栄養について基礎的な知識、実施手順方法を習得する。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	医療的ケア実施の基礎	なぜ医療的ケアを学ぶのか
2		医療的ケアを学び、実施するに至った経緯
3		個人の尊厳と自立
4		医療の倫理
5		保健医療に関する制度
6		医行為に関する法律
7		チーム医療と介護職員との連携
8		ヒヤリハット報告とアクシデント報告
9		演習　救急蘇生法
10		感染予防
11		療養環境の清潔・消毒法
12		滅菌と消毒
13		健康状態の把握
14		急変状態について
15	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」	呼吸のしくみとはたらき
16		呼吸状態の確認
17		喀痰吸引とは
18		喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
19		口腔内吸引・鼻腔内吸引の手順と留意点
20		人工呼吸器と吸引
21		気管カニューレ内部の吸引の手順と留意点
22		子どもの吸引と吸引に伴うケア
23		喀痰吸引により生じる危険、発生時の対応・対策
24		記録および報告
25	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」	消化器系のしくみとはたらき
26		経管栄養とは
27		経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
28		栄養剤に関する知識
29		経管栄養実施により起こりうる異常

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　﨑井　真弓	
医療的ケアⅠ		講義・演習	元　病院看護師	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
34	50	介護保育科	2,3	通年

30	胃ろう経管栄養・経鼻経管栄養の手順と留意点
31	子どもの経管栄養と経管栄養に必要なケア
32	経管栄養に関係する感染と予防
33	経管栄養により生じる危険、発生時の対応・対策
34	記録および報告
単位認定試験	

〔使用テキスト〕
「介護福祉士養成テキスト第４巻　医療的ケア」
法律文化社

〔参考文献〕
「最新介護福祉全書」メヂカルフレンド社

〔単位認定の方法及び基準〕
・学則に定めるとおり
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　﨑井　真弓	
医療的ケアⅡ		演習	元　病院看護師	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
7	10	介護保育科	3	通年

〔授業の目的・ねらい〕
医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

〔授業全体の概要〕
安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得する。各手技について、定められた回数の演習を行ったのち、実技試験を行い、合格とする。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕
1　口腔内吸引が正確にできる。
2　鼻腔内吸引が正確にできる。
3　気管カニューレ内部の吸引が正確にできる。
4　胃ろう経管栄養が正確にできる。
5　経鼻経管栄養が正確にできる。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	喀痰吸引法	口腔内吸引・鼻腔内吸引練習
2		口腔内吸引・鼻腔内吸引練習
3		口腔内吸引・鼻腔内吸引試験
4		気管カニューレ内部の吸引練習・試験
5	経管栄養法	胃ろう経管栄養練習
6		胃ろう経管栄養試験
7		経鼻経管栄養練習・試験
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔使用テキスト〕
「介護福祉士養成テキスト第4巻　医療的ケア」
法律文化社

〔参考文献〕
「最新介護福祉全書」メヂカルフレンド社

〔単位認定の方法及び基準〕
・学則に定めるとおり
・レポート等の提出物

授業概要

科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅲ	講義・演習	崎井真弓　元病院・高齢者施設看護師 牟田口辰巳　日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ連携科学学会理事 長尾　博　元宮城教育大学教育学部視覚障害教育教授 日本盲導犬協会からの派遣 広島県障害者療育支援センターから派遣

授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
45	90	介護保育科	1,2,3	通年

障害や疾病のある人のさまざまな暮らし、さまざまな思いを理解し、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。対象者個々の障害と生活への影響を理解し、生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する。

〔授業全体の概要〕

ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、睡眠の介護等について、各障害・疾病別に学ぶ。

各障害・疾病の詳しい原因や症状、治療、制度的な位置づけについては、「障害の理解」で学び、具体的にどのような生活上の困りごとが生じるのか、その困りごとに対して、介護福祉士としてどのようなかかわりができるのかを学ぶ。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

①障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解する。(障害の理解の復習)
②障害や疾病のある人の生活上の困りごとを理解できる。
③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解できる。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術	障害や疾病とともに生活する人の背景の理解 生活支援を行う意義(目的)
2	運動機能障害のある人の生活支援技術	運動機能障害の医学的・心理的理解、困りごとの理解
3		四肢麻痺の生活支援(移動・移乗)
4		四肢麻痺の生活支援(排せつ、食事)
5		自助具を用いた支援(関節リウマチ・脊髄損傷)
6		運動機能障害のある人の支援の実際(事例)
7	視覚障害のある人の生活支援技術	視覚障害の医学的・心理的理解、困りごとの理解
8		視覚障害の移動援助　外出援助
9		視覚障害の食事介助
10	聴覚障害のある人の生活支援技術	聴覚障害の医学的・心理的理解
11		聴覚・言語障害のある人の理解
12		聴覚障害のある人の生活を支える情報機器について
13		聴覚障害のある人から学ぶ①
14		聴覚障害のある人から学ぶ②
15	重複障害のある人の生活支援技術	盲ろう重複障害のある人の理解(ヘレンケラー自伝より)
16	内部障害のある人の生活支援技術	心臓機能障害に応じた生活支援技術
17		呼吸器機能障害に応じた生活支援技術
18		腎臓機能障害に応じた生活支援技術
19		膀胱・直腸機能障害に応じた生活支援技術

授業概要

科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅲ	講義・演習	崎井真弓　元病院・高齢者施設看護師 牟田口辰巳　日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ連携科学学会理事 長尾　博　元宮城教育大学教育学部視覚障害教育教授 日本盲導犬協会からの派遣 広島県障害者療育支援センターから派遣

授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
45	90	介護保育科	1,2,3	通年

20		小腸機能障害に応じた生活支援技術
21		HIVによる免疫機能障害に応じた生活支援技術
22		肝臓機能障害に応じた生活支援技術
23	発達障害のある人の生活支援技術	知的障害を伴う発達障害のある人の生活支援技術
24		知的障害を伴わない発達障害のある人の生活支援技術
25	精神障害のある人の生活支援技術	事例（統合失調症・気分障害）で学ぶ生活支援の実際
26		高次脳機能障害のある人の生活支援技術
27	難病の人の生活支援技術	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の人の生活支援の実際
28		パーキンソン病の人の生活支援の実際
29		筋ジストロフィーの人の生活支援の実際
30		まとめ　筆記試験
31	医療的生活支援技術	医行為でないとされる11項目について
32		バイタルサインとパルスオキシメーターの測定①
33		バイタルサインとパルスオキシメーターの測定②
34		創傷の処置とガーゼ交換①
35		創傷の処置とガーゼ交換②
36		服薬に関する支援①
37		服薬に関する支援②
38		服薬に関する支援③
39		清潔に関する支援①爪きり　口腔ケア
40		清潔に関する支援②耳垢の除去
41		排せつに関する支援①
42		排せつに関する支援②パウチにたまった排泄物の除去
43		排せつに関する支援③自己導尿
44		総復習
45		まとめ　筆記試験

〔使用テキスト〕
「最新介護福祉全書　障害別生活支援技術」

〔参考文献〕
「介護福祉士養成講座」中央法規

〔単位認定の方法及び基準〕
・学則に定めるとおり
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者 崎井　真弓
介護総合演習Ⅱ		（講義）	元病院看護師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15回	30時間	介護保育科3年	

［授業の目的・ねらい］
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての姿勢を養う

［授業全体の内容の概要］
介護実習において明確化した課題の改善に向け、校内学習との統合を図りながら介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指した授業を展開する。事前指導（障害の理解に関する学習）、支援技術、他職種との連携、緊急時の対応等を理解し、事後指導として記録やプロセスレコードで振り返る

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
1 個々の利用者の生活を理解し、個別ケアとチームケアの在り方が理解できる
2 個別ケアにおける介護過程の重要性と介護計画立案に関する基本的な技術を習得する
3 実習の振り返りを通して自己を客観的に振り返り、自身の課題を明確化できる
4 総合実習で行った介護過程の実践と評価を通じて、介護福祉士に求められる知識・技術を包括的に整理・理解できる
5 事例研究や発表を通して、介護サービス提供における倫理的思考や説明責任の技能を身につける

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］
コマ数
1　総合実習の意義・目的
2・3　総合実習の実習先の理解
4　参加実習の課題と総合実習の目標
5　実習書類の作成
6・7　記録の書き方 の目標
8　睡眠・終末期の考え方
9　総合実習の心構え・オリエンテーション
10　総合実習の振り返りによる課題の整理・お礼状
11・12　総合実習の振り返りによる課題の整理・ケーススタディのテーマ
13・14　ケーススタディ発表会
15　まとめ・単位認定試験

［使用テキスト］
「介護総合演習Ⅱ」
中央法規出版

［参考文献］
「最新介護福祉全書7　介護過程」
「最新介護福祉全書別巻　障害別生活支援技術」
メジカルフレンド社

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　﨑井　真弓
介護過程Ⅲ		（講義・演習）	元病院看護師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15回	30時間	介護保育科3年	

［授業の目的・ねらい］

他の科目で学習した知識や技術を統合して介護課程を展開する能力を養う学習とする。介護実習で担当した介護過程の展開から介護総合実習Ⅱと連動し、ケーススタディにつなぐ学習とする。

［授業全体の内容の概要］

総合実習の振り返りを行い、個々の介護課程の展開を振り返り、発表する中でよりよいケアの方法について検討する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1、ICFに基づく情報のアセスメント、介護計画、実施、評価にいたる一連の展開について理解する。
2、観察観点に沿った情報整理ができ、適切にアセスメントすることができる。
3、介護過程の展開を通し、適切な支援技術をする際の根拠となる基礎知識の必要性を学ぶ。
4、多職種協働によるチームアプローチの必要性が理解できる。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　ケーススタディとは
2　テーマの選定
3　ケーススタディの展開の方法
4　ケーススタディの展開の方法
5　ケーススタディの展開の方法
6　ケーススタディの展開
7　ケーススタディの展開
8　ケーススタディの展開
9　ケーススタディの展開
10　ケーススタディの展開
11　ケーススタディの展開
12　ケーススタディの展開
13　ケーススタディ発表
14　ケーススタディ発表
15　まとめ・考察

［使用テキスト］

「ケーススタディの手引き」 広島福祉専門学校

［参考文献］

「最新介護福祉全書7　介護過程」
「最新介護福祉全書別巻　障害別生活支援技術」
メジカルフレンド社

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物

授 業 概 要

授業の科目名	授業の種類	授業担当者　野村　裕之
介護の基本Ⅱ	講義・演習	元病院介護福祉士

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15 コマ	30 時間	介護保育科3年　前期

【授業の目的・ねらい】

「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。さらに、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。

【授業全体の内容の概要】

1. 介護福祉の施設・在宅における活動の場を学習する。2. 介護サービス提供のしくみと多職種・地域連携を学習する。3. 介護における安全の意義とリスクマネジメントを学習する。4. 施設・在宅における安全対策と感染予防を学習する。5. 介護従事者の健康と安全を学習する。

【授業終了時の達成課題】

1. 介護福祉の施設・在宅における活動の場を習得する。2. 介護サービス提供のしくみと多職種・地域連携を習得する。3. 介護における安全の意義とリスクマネジメントを習得する。4. 施設・在宅における安全対策と感染予防を習得する。5. 介護従事者の健康と安全を習得する。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1.　オリエンテーション　講
　第9章　介護福祉の活動の場　在宅における介護福祉
2.　介護老人福祉施設における介護福祉　講
3.　障害児・者福祉施設における介護福祉　講
4. 第 10 章　介護福祉サービスの提供のしくみ　講
　介護サービス提供のしくみと多職種連携
5.　地域連携　講
6. 第 11 章　介護における安全の確保　講
7.　介護領域におけるリスクマネジメント　講
8.　在宅における安全対策　講
9.　施設における安全対策　講
10.　感染予防と管理　講
11.第 12 章　介護従事者の健康と安全　講
　身体の健康管理
12.　心の健康管理　講
13.　労働安全対策　講
14.第 13 章　介護福祉に関する諸課題　講
15.　まとめ・試験　試

【使用テキスト】

「最新介護福祉士養成講座4　介護の基本Ⅱ」
（中央法規出版）

【参考文献】

【単位認定の方法および基準】

筆記試験および出席状況、授業態度、レポート等の提出物を総合的に勘案し、評価する。評価基準は学則に定める通り。

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者	
生活支援技術Ⅱ		講義・演習	野村　裕之　元病院介護福祉士	
授業の駒数	時間数	学科	学年	配当時期
20	40	介護保育科	3	通年

〔授業の目的・ねらい〕

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

〔授業全体の概要〕

対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、ICFの視点を活かすことの意義を理解し、生活支援の実践根拠について説明できる能力を身につける内容とする。

健康を保持する為の休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につながる内容とする。

人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する内容とする。

介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する内容とする。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

自立に向けた移動に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
自立に向けた身じたくに関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
自立に向けた食事に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
自立に向けた入浴・清潔の保持に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
自立に向けた排泄の介護に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
休息・睡眠の介護に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。
人生の最終段階における介護に関する生活支援技術の基本を習得する。
対象者の能力に応じた福祉用具を選択する意義と福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。
生活支援技術の実践の根拠について説明できる能力を身につける。

〔授業の各回テーマ・内容〕

駒		
1	自立に向けた排泄の介護	便秘と便失禁
2		尿失禁の分類と対応
3		おむつの種類と構造
4		ポータブルトイレでの排泄の手順と介助
5		おむつ交換の手順と介助①
6		おむつ交換の手順と介助②
7		尿器・便器の使用方法と介助
8		他職種の役割と協働
9	自立に向けた休息・睡眠の介護	休息・睡眠の意義と目的
10		ICFの視点に基づく休息・睡眠の介護に関するアセスメント
11		睡眠の種類とパターン、不眠の原因
12		安眠の為の介護
13		温罨法と冷罨法
14		他職種の役割と協働
15	終末期の介護	終末期における介護の意義と目的
16		ICFの視点に基づく終末期の介護に関するアセスメント
17		終末期における介護
18		臨終時の対応
19		グリーフケア
20		他職種の役割と協働

<table>
<tr><td colspan="2">科目名
生活支援技術Ⅱ</td><td>授業の種類
講義・演習</td><td colspan="2">授業担当者
野村　裕之　元病院介護福祉士</td></tr>
<tr><td>授業の駒数
20</td><td>時間数
40</td><td>学科
介護保育科</td><td>学年
3</td><td>配当時期
通年</td></tr>
<tr><td colspan="3">〔使用テキスト〕
「最新介護福祉士養成講座7　生活支援技術」
（中央法規出版）

〔参考文献〕
「最新介護福祉全書」メヂカルフレンド社</td><td colspan="2">〔単位認定の方法及び基準〕
・学則に定めるとおり
・レポート等の提出物</td></tr>
</table>

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　野村　裕之
介護過程Ⅱ		（講義・演習・実習）	元病院介護福祉士
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15回	30時間	介護保育科3年・通年	

［授業の目的・ねらい］
他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］
介護現場で頻度の多いケースのケーススタディを問題基盤型チュートリアルの形式で行う。学生が実際に問題点を抽出しながら、介護計画を作成・発表し、発表内容をチューターを交えてグループディスカッションを行うことにより、介護過程展開の実践力を養う。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
1. 脳血管障害ケースの介護過程について理解する。
2. 認知症ケースの介護過程について理解する。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数		
1	介護過程の実践	脳血管障害のアセスメントと立案
2	的展開	グループディスカッション
3		脳血管障害のアセスメントと立案
4		グループディスカッション
5		内部障害のアセスメントと立案
6		グループディスカッション
7		内部障害のアセスメントと立案
8		グループディスカッション
9		認知症のアセスメントと立案
10		グループディスカッション
11		認知症のアセスメントと立案
12		グループディスカッション
13		認知症のアセスメントと立案
14		グループディスカッション
15		まとめ・単位認定試験

［使用テキスト］
「最新介護福祉士養成講座9　介護過程」中央法規出版

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
学則に定める通り

授 業 概 要

科　目　名	授業の種類	授業担当者　佐々木　尚美
保育実習Ⅰ	（講義・演習・実習）	元広島市立幼稚園園長

授業の回数	時間数	配当学年・時期
	180	介護保育科2年・3年

〔授業の目的〕

保育実習は、保育士資格取得のための必須科目です。保育現場の中で保育士の役割や保育実践等を学ぶことを目的とします。

また、保育実習は、保育現場の中で現場を見る、聞く、そして触れることにより、保育理論をより正しく理解し、さらに学生自身が保育士や子ども、利用者と触れ合うことにより、保育士の仕事・役割、子どもや利用者について理解を深めることを目的とします。

〔授業終了時の目標〕

（保育所）

保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深める。保育所の機能とそこでの保育士の役割について理解し、保育所全体の役割を理解する。

（施設）

児童養護施設や障害者支援施設等の生活に参加し、子どもや利用者への理解を深める。実習施設の機能とそこでも保育士の職務について理解する。

〔授業終了時の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

（保育所）

①保育所の役割、機能について概要を理解する
②保育所の一日の流れを理解する。さらに実際の保育実践に参加し、乳幼児と生活を共にすることにより、生活状況を把握する。
③子どもの観察や関りを通して、子どもの発達を理解する
④遊びなどの生活の一部分を担当し、保育技術を習得する
⑤保育所における保育課程・指導計画を理解する
⑥保育士としての職業倫理を学ぶ
⑦保育士として、こどもの「最善の利益」を理解する

（施設）

①実習施設の概要を理解する
②施設の一日の流れを理解する。さらに施設の日常生活に参加し、子どもや利用者と行動を共にすることにより、生活状況を把握する。
③保育士として、こども（利用者）の「最善の利益」を理解する
④子どもや利用者との関わりを通して、利用者のニーズを理解する
⑤日常生活での援助（支援）の一部を担当し、援助技術を習得する
⑥施設における合理的配慮に基づいた援助（支援）計画を理解する
⑦保育士としての職業倫理を学ぶ

〔使用テキスト〕	〔単位認定の方法及び基準〕
東京福祉大学　保育実習の手引き	実習全日程の出席 実習施設における実習評価

授 業 概 要

科　目　名	授業の種類	授業担当者　佐々木　尚美
保育実習Ⅱ or Ⅲ	（講義・演習・実習）	元広島市立幼稚園園長

授業の回数	時間数	配当学年・時期
	90	介護保育科3年

〔授業の目的〕

保育実習は、保育士資格取得のための必須科目です。保育現場の中で保育士の役割や保育実践等を学ぶことを目的とします。

また、保育実習は、保育現場の中で現場を見る、聞く、そして触れることにより、保育理論をより正しく理解し、さらに学生自身が保育士や子ども、利用者と触れ合うことにより、保育士の仕事・役割、子どもや利用者について理解を深めることを目的とします

〔授業終了時の目標〕

（Ⅱ）

①保育活動を実践しながら、保育士として必要な態度・能力・技術を習得する

②家庭と地域の生活実態に触れて、乳幼児と家庭及び地域との関係に対する理解力、判断力を養うと共に、子育て支援に必要とされる能力を養う

③将来あるべき保育士の姿を絶えず自らに問いかけながら、子ども・児童観を養う

（Ⅲ）

①施設における援助（支援）を実践しながら、保育士として必要な態度・能力・技術を習得する

②家庭や地域の生活実態に触れて、生活ニーズに対する理解力、判断力を養うと共に、子どもや利用者のニーズに対応する合理的配慮に基づいた援助方法を習得する

③将来あるべき保育士の姿を絶えず自らに問いかけながら、自らの福祉観を養う

〔授業終了時の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

（Ⅱ）

①実際の保育活動に参加し、保育技術を習得する

②乳幼児の個人差について理解する、特別に支援を必要とする場合や生活環境に伴う乳幼児のニーズを理解し、その対応について学ぶ

③学生自ら指導計画を立案し、それをもとに実践する

④地域社会に対する理解を深め、地域社会との連携の方法について具体的に学ぶ

⑤保育者支援の重要性を理解し、指導・援助の基本的姿勢を学ぶ

⑥保育士としての職業倫理具体的に学び、身につける

⑦保育士に求められる態度・能力・技術の向上を目指し、自分自身の課題を明確にする

⑧こどもの「最善の利益」への配慮を学ぶ

（Ⅲ）

①子どもや利用者の個人差、特に障害や生活支援に伴う利用者のニーズを理解しながら、その対応について学ぶ

②子どもや利用者個々の「自立」について理解する

③自ら援助（支援）計画を立案・実施・再評価する

④地域社会に対する理解を深め、地域社会との連携の方法について学ぶ

⑤保育士としての職業倫理具体的に学び、身につける

⑥保育士に求められる態度・能力・技術に照らし合わせて、自分自身の課題を明確にする

⑦こども（利用者）の「最善の利益」への配慮を学ぶ

〔使用テキスト〕	〔単位認定の方法及び基準〕
東京福祉大学　保育実習の手引き	実習全日程の出席 実習施設における実習評価

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅳ		（講義・演習）	崎井　真弓：元病院看護師 野村　裕之：元病院介護福祉士
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
24日	180時間	介護保育科３年	

［授業の目的・ねらい］

個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするために利用者ごとのICFに基づく介護計画が作成でき、実施・評価ができる。他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得できる

［授業全体の内容の概要］

1、利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、ICFに基づき実際の場面での介護過程の展開の方法を学ぶ。 2、チームの一員として介護にかかわり、介護の専門性を踏まえた評価及び記録の方法を学ぶ。 3、介護福祉士としての事故の介護観が持てる。 4、利用者の個別性に応じた安全・安楽な介助の方法を学ぶ

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1、利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、ICFに基づき実際の場面での介護過程の展開の方法を習得する。 2、チームの一員として介護にかかわり、介護の専門性を踏まえた評価及び記録の方法を習得する。 3、介護福祉士としての事故の介護観が持てる。 4、利用者の個別性に応じた安全・安楽な介助の方法を習得する。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

実習施設・事業等（Ⅱ）における介護実習
総合実習　期間：令和2年9月28日（月）～10月24日（土）
実習施設種別　：介護老人福祉施設　介護老人保健施設　障害者支援施設　原爆養護ホーム
実習内容　　：ICFに基づく介護過程の展開
　　：施設・事業所等における生活支援技術、レクリエーション、
巡回指導　　：週1回、実習施設へ学生指導のため巡回

［使用テキスト］
「最新介護福祉全書　介護総合演習」
メジカルフレンド社
「実習の手引き」 広島福祉専門学校

［参考文献］
「最新介護福祉全書7　介護過程」
「最新介護福祉全書別巻　障害別生活支援技術」
メジカルフレンド社

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）

実習評価および出席状況、提出物等、実習態度等を総合的に勘案し、評価する。評価基準は学則に定めるとおり

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

社会福祉科　１３９０時間

実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の実務経験
内平　八重子	ソーシャルワーク演習Ⅰ	30	保健師 社会福祉協議会社会福祉士、センター長
	社会調査法	30	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	30	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	30	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	30	
	保健医療	30	
	専門演習	30	
	実務者理論（認知症の理解）	30	
	総合演習	30	
木嶋　眞之祐	健康・スポーツ	30	高等学校にて体育教諭として勤務
渡辺　博文	福祉と教育	30	広島県教育委員会障害児教育室指導主事として勤務
	障害者福祉論	60	
	生涯学習概論	60	
上栗　健登	養護原理	30	児童養護施設にて社会福祉士として勤務
上栗　明男	児童・家庭福祉論Ⅱ	30	児童養護施設にて社会福祉士・管理職として勤務
	家族福祉論	30	
山﨑　年幸	介護概論	30	病院にて介護福祉士として勤務
上栗　哲男	児童・家庭福祉論	30	児童養護施設の施設長として勤務
生田　麻衣	カウンセリング演習	60	東広島市教育委員会スクールソーシャルワーカーとして勤務
﨑井　真弓	リハビリテーション論	30	病院にて看護師として勤務
	実務者理論（こころとからだのしくみ）	46	
	実務者演習（医療的ケア）	54	
澤田　祥子	手話	30	広島県ろうあ連盟から派遣され手話通訳士として多部門で勤務
砂橋　昌義	レクリエーション理論	20	全国福祉レクリエーション・ネットワーク　事務局長・副代表 NPO法人ひろしまレクリエーション協会　理事長
	レクリエーション実技	50	
	福祉レクリエーション理論	30	
	福祉レクリエーション援助論	30	
	福祉レクリエーション援助技術	60	
鍋島　一仁	キャンプ指導法	30	広島県キャンプ協会副会長、広島市キャンプ協会会長
河野　ひろ子	実務者理論（生活支援技術）	6	病院、高齢者施設にて看護師として勤務
	実務者理論（介護過程）	4	
	実務者理論（発達と老化の理解）	30	
	実務者理論（障害の理解）	30	
野村　裕之	実務者理論（介護の基本）	20	病院にて介護福祉士として勤務
	実務者演習（介護過程）	60	
内平　八重子 各実習施設指導者	ソーシャルワーク実習	200	実習施設指導者は福祉施設にて指導者要件のある人が担当 （法令上、実習指導者になる要件の一つとして、介護福祉士資格取得後3年以上の実務が必要）
	合計	1390	

シ ラ バ ス

科目名	授業の種類	授業担当者 内平 八重子
ソーシャルワーク演習Ⅰ	(講義・演習・実習)	社会福祉協議会勤務

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	社会福祉科1年 前期

[授業の目的・ねらい]

ソーシャルワークにおけるニーズについて理解し、地域社会におけるニーズについて考察を深める。

さらに、地域社会の診断、ニーズの予測、地域ニーズの探索から地域アセスメント、地域福祉支援計画を作成することを通して、地域における包括的支援方法を身につける。

[授業全体の内容の概要]

・テキストに沿って、相談援助の流れを学習する。
・新聞等、種々の情報を収集し、自分の意見を持つ、整理する。
・グループワーク等で他者と意見交換し、自分の意見の修正や他者との調和を図る。
・障害者の通所施設において、基礎福祉演習を行う。
・基礎福祉演習により、対象者理解、スタッフの関わり方、支援の方向性などについて学習する。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

・地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握について理解する。
・地域福祉の計画について理解する。
・ネットワーキングについて理解する。
・社会資源の活用、調整、開発について理解する。
・サービスの評価について理解する。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 オリエンテーション／社会福祉について
2 社会福祉について、社会福祉援助活動についてP2-15
3 直接援助活動の過程について／間接援助活動の過程について P15-26
4 ニーズとは何か／個人のニーズ P28-40
5 福祉ニーズについて P40-52
6 コミュニティとその診断 P53-66
7 地域社会におけるニーズ探索とその段階について P67-75
8 見学実習①
9 見学実習②
10 現地調査の実施方法 P76-86
11 計画立案と満たされていないニーズ P87-98
12 計画の実践 P98-109
13 評価の方法／成果発表について P109-118 P121-132
14 地域社会に対するニーズ調査から支援計画までのプロセスについて
15 まとめ／単位認定試験

[使用テキスト]

「はじめての社会福祉」編集委員会
『はじめての社会福祉』ミネルヴァ書房

[参考文献]

新聞記事等随時配布

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

試験	70%
授業態度	15%
提出物	15%

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者 内平 八重子
社会調査法		(講義) 演習・実習)	社会福祉協議会勤務
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15コマ	30時間	社会福祉科2年 前期	

[授業の目的・ねらい]

社会調査の基本的性格を考察し、代表的な調査技法である統計調査法と事例調査法の基本原理と方法手順について学ぶ。また、標本抽出の方法や、調査結果の整理や分析の方法、質問紙、調査票の作成の手順、観察や面接の技法といった具体的な方法論も学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

・社会調査の歴史や基本的性格の考察から、現在の福祉活動における社会福祉調査の必要性を学ぶ。
・量的調査と質的調査の特徴を学び、調査結果の意味について学習する。
・量的調査、質的調査の概要が分かり、できるようになる。
・観察調査、面接調査の演習を行い、実際にどのように行われているか理解する。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

・社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。
・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。
・量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数
1 社会調査の意義と目的
2 統計法／倫理と個人情報保護
3 量的調査1:量的調査の概要／標本抽出
4 量的調査2:調査票作成と留意点／測定
5 量的調査3:調査票の配布／回収
6 量的調査4:集計／分析／検定
7 量的調査のまとめ
8 質的調査1:質的調査の概要
9 質的調査2:観察法／面接法
10 質的調査3:その他の手法
11 質的調査4:記録とデータ分析
12 質的調査:5質的調査のまとめ
13 社会調査の実施にあたってのITの活用方法
14 統計法、倫理、個人情報保護の復習
15 量的調査、質的調査の復習

[使用テキスト]

社会福祉士養成講座編集委員会
『新・社会福祉士養成講座5 社会福祉の基礎』
中央法規

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

試験	70%
授業態度	15%
提出物	15%

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者 内平 八重子
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	(講義)・演習・実習	元保健師、社会福祉協議会勤務

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	社会福祉科3年　前期

[授業の目的・ねらい]
実習機関で行われる実習内容に関する知識を深め、心構えや実習意欲を高める。

[授業全体の内容の概要]
・実習の全体像を伝える。
・実習における利用者対象者像を伝える。
・実習施設や機関の機能や役割を伝える。
・地区診断をシュミレーションする。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]
・実習の全体像のイメージができる。
・実習における利用者対象者のイメージができる。
・実習施設や機関の機能や役割がイメージできる。
・実習施設の事前学習の進め方が分かる。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]
コマ数
1 オリエンテーション／実習に向き合う姿勢づくり
2 専門職養成と実習の関係を明確化する
3 相談援助実習の位置づけと内容
4 ソーシャルワーカーとしての社会福祉士
5 実習の場と形態
6 契約関係のなかにある実習
7 実習スーパービジョンの理解
8 実習評価の理解
9 事前学習として実習先を理解する意義
10 実習先機関・施設、地域の理解
11 実習先機関・施設、地域の利用者理解と援助方法1
12 実習先機関・施設、地域の利用者理解と援助方法2
13 実習先機関・施設の基本的な理解
14 社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化
15 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解／口答試験①②③

[使用テキスト]
「社会福祉士　相談援助実習」中央法規

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

出席状況	20%
授業態度	20%
口頭試験	60%

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　内平　八重子
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	(講義)・演習・実習	元保健師、社会福祉協議会勤務

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	社会福祉科3年　後期

[授業の目的・ねらい]
実習分野、利用者理解、施設理解に必要な知識を習得する。
相談援助に係る知識と技術を学び、身につける。

[授業全体の内容の概要]
・実習先の種別を理解し、施設概要を調べる。
・相談援助技術を実際的に理解する。
・実習計画を立てる。
・個別支援計画をモデルを使って立ててみる。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]
・実習の3段階が理解できる。
・利用者対象者、実習施設について理解する。
・個別支援計画の概要が分かる。
・相談援助に必要な知識、技術を身につける。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]
コマ数
1 相談援助実習の仕組み
2 実習プログラムの理解
3 配属先実習機関・施設の理解
4 施設概要の作成
5 実習計画について
6 実習計画の作成
7 事前訪問の目的と意義
8 事前訪問時の態度と注意事項
9 相談援助技術の理解と実習における実践1
10 相談援助技術の理解と実習における実践2
11 相談援助技術の理解と実習における実践3
12 相談援助技術の理解と実習における実践4
13 実習評価の理解
14 実習記録の理解
15 実習スーパービジョン、訪問指導の理解
口答試験①②③

[使用テキスト]
「社会福祉士　相談援助実習」中央法規

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

施設概要完成度　40%
実習計画完成度　60%

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　内平　八重子
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		（講義・演習・実習）	社会福祉協議会勤務
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15コマ	30時間	社会福祉科4年　前期	

［授業の目的・ねらい］

実習の具体的な体験や援助活動を振り返り、専門的援助技術のとして概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。実践事例の報告と検討、総括を行い、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

・実習の全体像をふりかえる。
・実習で行った支援をふりかえる。
・学んだこと、感じたことをまとめ、整理し、共有する。
・自己の課題に気づく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・実習の全体像をふりかえり、客観的に評価できる。
・実習で行った支援をふりかえり、今後の支援のイメージが持てる。
・考察洞察を深め、実習報告会で発表する。
・自己の課題に気づくことができる。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数
1 実習終了の振り返り
2 実習のまとめの作成
3 社会福祉専門職についての理解1　各種手続き
4 社会福祉専門職についての理解2　相談援助業務
5 社会福祉専門職についての理解3　行事等の実施過程
6 職種間連携についての理解
7 実習先機関・施設の社会的連携についての理解
8 専門職の倫理綱領と実践についての理解
9 ソーシャルワーカーとしての自分についての理解
10 実習評価の理解
11 実習後の学習課題
12 実践事例の報告と検討
13 実習の全体総括
14「実習報告書」作成
15「実習報告書」発表

［使用テキスト］

「社会福祉士　相談援助実習」中央法規

［参考文献］

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

実践事例の報告	50%
「実習報告書」	50%

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　内平　八重子
保健医療		（講義・演習・実習）	元保健師、社会福祉協議会勤務
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15コマ	30時間	社会福祉科3年　後期	

［授業の目的・ねらい］

相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスにおける各専門職の役割および連携についての基礎的な知識を踏襲し、保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について理解する。

［授業全体の内容の概要］

・保健医療サービスの変遷および今日的課題について学ぶ。
・チーム医療を理解し、そのなかでの社会福祉専門職の役割を学ぶ。
・保健医療サービス提供施設とシステムを学ぶ。
・医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度について理解する。
・地域包括ケアシステムの必要性や課題を学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

医療保険制度、保健医療サービスについて理解する。
専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。
保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について分かる。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数
1 保健医療とは何か
2 医療関連職種について
3 医療施設、介護施設について
4 在宅支援のシステムについて
5 医師の役割とインフォームドコンセントについて
6 医療ソーシャルワーカーとその業務内容について
7 医療保険制度について
8 高額療養費制度について
9 診療報酬制度について
介護保険制度と介護報酬の概要および公費負担医療制度の概要
保健医療サービスの連携の理論
保健医療サービスの連携の実際
地域の保健医療ネットワーク構築のための基礎知識
地域の保健医療ネットワーキングの実際
保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割等のまとめ

［使用テキスト］

社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座17　保健医療サービス』中央法規

［参考文献］

NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会
『医療福祉総合ガイドブック』医学書院

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）

試験	70%
提出物	15%
授業態度	15%

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　内平　八重子
専門演習		（講義・演習・実習）	元保健師、社会福祉協議会勤務
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15コマ	30時間	社会福祉科4年　後期	

[授業の目的・ねらい]
自己理解・他者理解を深める。
事例検討を通して、課題のとらえ方や考え方を理解する。
事例に対して見立てができる。

[授業全体の内容の概要]
事例を例示し、グループワークやロールプレイを通して課題のとらえ方や考え方を理解する。
事例の課題解決に向け、関連する制度や社会資源について整理する。
事例に出てくる用語について、他者に説明できる程度まで理解する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]
事例を例示し、課題のとらえ方や考え方を理解でき、見立てができる。
事例の課題解決に向け、関連する制度や社会資源をイメージできる。
事例に出てくる用語について、他者に説明できる程度まで理解できる。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]
コマ数
1 相談援助演習について
2 事例検討「認知症と日常生活自立支援事業」
3 事例検討「一人親家庭の支援」
4 事例検討「知的障害者の支援」
5 事例検討「家庭環境」
6 事例検討「経済的虐待の支援」
7 事例検討「地域理解について」
8 事例検討「コミュニケーション演習」
9 事例検討「聴力障害者の支援」
10 事例検討「困難事例の解決法」
11 事例検討「場内会議」
12 事例検討「地域ケア会議」
13 事例検討「地域福祉活動の実際」
14 事例検討「介護者支援について1」
15 事例検討「介護者支援について2」／まとめ

[使用テキスト]
社会福祉士相談援助演習　中央法規
その他、適宜、資料を配布する

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

授業態度	20%
演習参加姿勢	30%
口頭試験	50%

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者 内平 八重子
認知症の理解Ⅰ（実務者）	（講義・演習・実習）	元保健師、社会福祉協議会勤務

授業の回数	時間数	配当学年・時期
5コマ	10時間	社会福祉科2年

[授業の目的・ねらい]

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

[授業全体の内容の概要]

認知症に伴うこころとからだの変化と、それに対するケア、日常生活、連携と協働、家族への支援などについて、認知症のある人の生活の様子を視聴覚教材や事例検討を通して理解する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

・認知症ケアの取り組みの経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。
・認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。
・認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 オリエンテーション/認知症ケアの原則／パーソン・センタード・ケア
2 認知症の人の心理と行動の関係／中核症状と行動・心理症状
3 認知症の人との関わり方
4 認知症の人の家族に対する支援
5 まとめ／単元末試験

[使用テキスト]

二訂介護福祉士養成 実務者研修テキスト
第7巻認知症の理解Ⅰ・Ⅱ
その他、適宜資料を配布する

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

提出物	15%
授業態度	15%
試験評価	70%

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者 内平 八重子
認知症の理解Ⅱ（実務者）	（講義・演習・実習）	元保健師、社会福祉協議会勤務

授業の回数	時間数	配当学年・時期
10コマ	20時間	社会福祉科2年 前期

[授業の目的・ねらい]

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

[授業全体の内容の概要]

認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、制度等支援体制などについて、理解する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

・代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。

・認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。

・地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 認知症の原因疾患
2 認知症の症状
3 進行による変化
4 検査や治療方法
5 生活歴
6 家族・社会関係
7 認知症のある人のアセスメント
8 居住環境
9 地域の中で認知症の人を支える方法
10 まとめ／単元末試験

[使用テキスト]

二訂介護福祉士養成 実務者研修テキスト
第7巻認知症の理解Ⅰ・Ⅱ
その他、適宜資料を配布する

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

提出物	15%
授業態度	15%
試験評価	70%

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者 内平 八重子
総合演習	（講義・演習・実習）	元保健師、社会福祉協議会勤務

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	社会福祉科1年 前期

[授業の目的・ねらい]
・ソーシャルワークについて、イメージできるようになる
・情勢に関心を持ち、情報収集できるようになる

[授業全体の内容の概要]

前半は、資料から必要な情報を集めることから始め、それを解釈していく
徐々に物事を分析する視点や解釈について学び、後半は事例を読み解く
これらを通して、ソーシャルワークのイメージを形成していく

[授業終了時の達成課題（到達目標）]
・情勢に敏感になる
・必要な情報の入手先が分かる
・状況を多角的な視点で分析できる

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]
コマ数
1 ソーシャルワークのイメージづくり1
2 ソーシャルワークのイメージづくり2
3 コミュニケーションスキル
4 コミュニケーション演習
5 交流分析：ストローク
6 交流分析：人生態度
7 事例：認知症の人の支援
8 事例：生活福祉資金
9 事例：生活福祉資金福祉サービス利用援助事業
10 事例：ひとり親世帯の支援
11 事例：知的障害者の支援
12 事例：聴力障害者の支援
13 事例：精神障害者の支援
14 ソーシャルサポートネットワーク
15 まとめ

[使用テキスト]

随時資料を配布

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

試験	70%
授業態度	15%
提出物	15%

授 業 概 要

科目名 健康・スポーツ	授業の種類 （講義・演習・実習）	授業担当者　木嶋　眞之祐 高等学校体育教員

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15駒	30時間	社会福祉科　1年　　前期

〔授業の目的・ねらい〕

健康と身体活動の関係について、基本的生活習慣・発育段階における運動の量と質・目的に応じたトレーニング内容等それぞれの視点から考え、人生におけるスポーツ活動の役割を理解する。また、実技においてはバドミントン・バレーボール及び体力づくり運動などを実践し、各種競技の公式なルールを学ぶとともに、それを行う人の年齢や体力によってどのような特別ルールが必要かを考える。

〔授業全体の内容の概要〕

歩く、走る、跳ぶ、投げる、掴むなどの基礎的な動作を各種の運動やスポーツに発展させることの必要性を知り、発育段階やその場の環境に適応した身体活動を効率的に展開していく方法を理解させる。さらに、そのようにして得た体力や適応力を現代社会の中でどのように発揮し、よりよい健康的な生活に結びつけていくかを考察する。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

運動スポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕コマ数

1　健康であるとはⅠ
2　健康であるとは2
3　生活習慣病について
4　こころの健康について
5　福祉社会と健康
6　人生と基本的生活習慣とスポーツ
7　発育段階に応じた運動とトレーニング方法
8　バドミントン
9　バドミントン
10　バレーボール
11　バレーボール
12　ソフトボール
13　ソフトボール
14　体力づくり運動
15　体力づくり運動

〔使用テキスト〕

大学生の健康・スポーツ科学研究会
「大学生の健康・スポーツ科学　第5版」道和書院

〔参考文献〕

〔単位認定の方法及び基準〕
（試験やレポートの評価基準など）

試験、レポートの成績だけでなく、授業への取り組み態度や意欲等も評価の対象とする。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者　渡辺博文
福祉と教育	（講義・演習・実習）	元広島県教員委員会 障害児教育室指導主事

授業の回数	時　間　数	配当学年・時期
１５コマ	３０時間	社会福祉科　１年　　後期

［授業の目的・ねらい］

学校教育で子どもに育む「生きる力」の中には、“幸せに生きる”“生活の質を高める”という福祉の視点が欠かせない。福祉と教育に共通する人間理解、課題把握、問題解決などの力量を身に付け、対人相互交渉力の向上に資する。

［授業全体の内容の概要］

子どもの「生きる力」を育むには、学校、家庭、地域の連携･協力が必要である。この学校･家庭・地域は福祉とも密接な関わりがある。本科目では、教育と福祉に関して、子どもや保護者の意識、理念や施策の実情を知り、コミュニケーション理論と演習を学ぶことにより、福祉と教育の理論的・臨床的な課題を追究する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

“より良い生活”や“豊かな人生”を支援するという福祉と教育に共通する知識と技術を学び、人にかかわる職種に携わる者に必要とされる資質を高める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　子どもの生活実態と保護者の教育に対する意識
2　障害児の福祉と教育の歴史　～教育の原点・福祉の基盤として～
3　学校教育の法体系と施策の現状
4　社会福祉の法体系と施策の現状
5　教師に求められる資質と学校教育の現状や課題
6　障害の理解と障害者の福祉及び教育の視座
7　幼児期の福祉と教育（保育所・幼稚園・認定子ども園）
8　学校で取り扱う「福祉教育」の実際
9　福祉と教育の連携で取り組む課題（いじめ・不登校・児童虐待など）
10　後期中等教育及び高等教育の現状と課題
11　コミュニケーションの諸理論とその実際（傾聴・エゴグラム･ＳＧＥの演習）
12　バイスティックとカウンセリング
13　ライフサイクルから福祉と教育を考える
14　事例研究（病気の子どもの福祉と教育、介護等体験など）
15　まとめ

［使用テキスト］

・東京福祉大学編　保育児童福祉要説　中央法規出版

［参考文献］

・中川義基編著　介護福祉学 4 障害の理解　主婦の友社
・寺脇　研　何処へ向かう教育改革　主婦の友社
・寺脇　研　動き始めた教育改革　主婦の友社
・幼稚園教育要領、保育所保育指針など

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

広島福祉専門学校学則第 26 条による。（出席状況・考査・学習態度）

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者　渡辺博文
障害者福祉論	（講義・演習・実習）	元広島県教員委員会 障害児教育室指導主事

授業の回数	時間数	配当学年・時期
３０コマ	６０時間	社会福祉科２年　前期・後期・通年

［授業の目的・ねらい］

障害者福祉の理念、歴史的変遷、法体系及び実施体制などの基本的な事項を学び，事例等の具体的な事柄を通して施策や機関・施設並びに相談援助活動について実践的な理解を深める。

［授業全体の内容の概要］

障害者福祉の理念、歴史的変遷、法体系及び実施体制などはテキスト及び参考文献を中心に学習を進め、福祉サービスや関連分野及び事例等に関しては、テキストのほかビデオや関連資料、実地研修などを通して理解を深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

社会福祉士に必要な専門的知識と実践的力量を身につけるとともに、社会福祉士受験資格の取得をめざす。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　障害者を取り巻く国際情勢
2　障害者を取り巻く国内情勢
3　ノーマライゼーションについて
4　障害者の権利に係る法制度
5　障害者の生活実態
6　障害の概念と構造的理解
7　障害者の定義と手帳制度
8　障害者基本法と障害者基本計画
9　身体障害者・知的障害者の法令と福祉
10　精神障害者の法令と福祉
11　発達障害者の法令と福祉
12　障害者の雇用に係る法令と現状
13　バリアフリー新法と補助犬法
14　社会参加を促進する生活環境の整備
15　保健・医療・年金等に関する法令
16　特別支援教育に関する法令と現状
17　所得保障と経済的負担の軽減
18　障害者自立支援制度(1)理念としくみ
19　障害者自立支援制度(2)支給決定・利用
20　障害者自立支援制度(3)医療・補装具
21　障害者自立支援制度(4)地域生活支援
22　障害者自立支援制度(5)障害児支援
23　障害者自立支援制度(6)行政の役割
24　障害者自立支援制度(7)専門職の役割
25　障害者自立支援制度(8)多職種連携
26　障害者関連施設見学の事前学習
27　障害者関連施設の見学実習(1)
28　障害者関連施設の見学実習(2)
29　事例研究
30　まとめ

［使用テキスト］

・社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 14　障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規出版

［参考文献］

・中川義基編著　介護福祉学 4 障害の理解　主婦の友社
・小澤温著　よくわかる障害者福祉　ミネルヴァ書房
・内閣府　障害者白書　平成29年度版　勝美印刷

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

広島福祉専門学校学則第 26 条による。（出席状況・考査・学習態度）

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者　渡辺博文
生涯学習概論	（講義・演習・実習）	元広島県教員委員会 障害児教育室指導主事

授業の回数	時間数	配当学年・時期
３０コマ	６０時間	社会福祉科２年　前期・後期・通年

［授業の目的・ねらい］

教育基本法の改正の背景の一つに地域の教育力低下があった。「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」への学校教育改革の緊要な関連分野として、社会教育・生涯学習があり、これらの思想・歴史や法制度、実態と課題等について理解を深める

［授業全体の内容の概要］

教育の育みは、学校、家庭、地域の連携･協働が必要である。中でも社会教育・生涯学習は、人生 100 年時代のライフサイクルにおける学びとともに学校教育を支援する役割がある。本科目では、社会教育・生涯学習の歴史・理念・施策を理解するとともに、地域とともにある学校に資するための今日的・具体的な課題を学修する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

多様化する社会においては、学校の枠を超えた支援や協働が重要となり、社会教育・生涯教育について学習することで、広い視野で教育や福祉にかかわる資質を高める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1 データで見る我が国の社会情勢
2 現代社会の諸相と社会教育・生涯学習
3 我が国の社会教育・生涯学習の歴史と思想
4 世界にみる生涯学習の系譜と実情
5 P.ラングランとE.ジェルピの生涯教育論
6 社会教育・生涯学習に係る法体系と施策の現状
7 社会教育・生涯学習の理論・対象・方法
8 社会教育・生涯学習の諸施設と職員
9 社会教育施設見学の事前学習
10 社会教育施設見学①(公民館)
11 同上
12 学校教育を支援し協働する社会教育・生涯学習
13 開かれた学校が求められる背景と役割
14 コミュニティスクールの実践事例
15 レポート設題 1(開かれた学校の具現化の課題)
16 地域文化の継承と次世代育成
17 地域の安全に取り組む住民活動(地域防災)
18 地域の健康に取り組む住民活動(地域スポーツ)
19 社会教育施設見学①(生涯学習センター)
20 同上
21 レポート設題 2(地域社会の社会教育等の課題)
22 貧困・格差の現状とそれを支える仕組みづくり
23 若者の支援と居場所づくり
24 障害者の生涯学習
25 多様性を包括する多文化共生社会
26 多文化共生社会についての協議
27 人口減少時代の社会教育・生涯学習
28 自分の住んでいる地域の社会教育
29 課題研究の協議とまとめ
30 講義のまとめ(試験)

［使用テキスト］

手打明敏・上田孝典編著「社会教育・生涯学習(はじめて学ぶ教職 7)」ミネルヴァ書房

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

広島福祉専門学校学則第 26 条による。（出席状況・考査・学習態度）

［参考文献］

・香川正弘　他　「よくわかる生涯学習」ミネルヴァ書房
・白石克己　　「生涯学習概論」実務教育出版
・文部科学省が発出する社会教育及び生涯学習に関する各種資料

授 業 概 要

科目名 養護原理	授業の種類 講義	授業担当者　上栗　健登 児童養護施設社会福祉士

授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科2年

〔授業の目的・ねらい〕

児童養護における「家庭養育」と「社会的養護」の関係と、その意義と役割を認識し、養護問題の現状と児童福祉施設の実際について理解を深める。そして児童福祉施設の積極的意義と実践的技術についても認識させる。

〔授業全体の内容の概要〕

テキストを中心とするが、事例や実践例を多用して咀嚼しやすく認識しやすい内容とする。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

施設養護に対する無理解や消極的意識を是正し、固有の意義と実践歴があることを理解させるとともに、施設養護に携わることの魅力を感じとらせる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　オリエンテーション
2　現代社会と子どもを取り巻く環境
3　社会的養護とは
4　身のまわりから社会的養護を考える
5　VTR 視聴「石井十次」
6　石井十次の実践と現代的意義
7　施設養護の実践
8　人間性回復の原理と個別化の原理
9　親子関係調整の原理と社会復帰の原理
10　個別援助技術と個別援助事例
11　日常生活支援と自立支援の関係
12　社会的養護の領域
13　求められる専門性と援助技術
14　養護実践現場の連携とチームワーク
15　まとめ

〔使用テキスト〕

「子どもの生活を支える社会的養護」
（ミネルヴァ書房）
小野澤昇/田中利則/大塚良一〔編著〕

〔参考文献〕

山縣　文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房

新・社会福祉士養成講座 15
『児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度』
中央法規。

〔単位認定の方法及び基準〕

授業意欲・態度を重視して、その中での小テストやレポートも加味する。

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　上栗　明男
児童・家庭福祉論Ⅱ	講義・演習	児童福祉施設副園長

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15駒	30時間	社会福祉科　2年　　後期

〔授業の目的・ねらい〕

わが国は本格的な少子高齢社会を迎え、これまでのウエルフェア中心の児童福祉からウエルビーイングをもしっかりと見据えた児童家庭福祉への転換が求められる時代を迎えた。この新たな状況や課題を踏まえて、児童家庭福祉の諸課題と制度や実践に関する知識や倫理等について学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕

テキストを中心に進めるが、単元ごとに練習問題や事例問題を取り入れて理解度を確認していく。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　入所児童からの訴え（作文集『続・泣くものか』）
2　現代社会と子ども家庭の問題
3　子どものための福祉の原理
4　日本の児童福祉の歴史
5　戦後の児童福祉の歩み
6　児童福祉法
7　児童相談所と関連機関
8　児童福祉施設
9　児童の社会的養護サービス
10　児童虐待の定義
11　児童虐待の実態
12　子どもを虐待から保護する仕組み
13　子ども家庭への相談援助活動
14　施設ケアの内容
15　まとめと試験

〔使用テキスト〕

社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新・社会福祉士養成講座　児童や家庭に対する支援と
児童・家庭福祉制度」（中央法規出版）

〔参考文献〕

〔単位認定の方法及び基準〕

（試験やレポートの評価基準など）

試験を基本（90%）とするが、授業への取り組み（出席状況・マナー等 10%）も加味する。

授 業 概 要

科目名 家族福祉論	授業の種類 講義・演習	授業担当者　上栗　明男 児童福祉施設副園長

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15駒	30時間	社会福祉科　3年　　前期

〔授業の目的・ねらい〕

現代の多様化した家族の状況や抱える問題を提示し検討する。また、その解決のためのサービスやアプローチ、ネットワークについて学修する。エンパワメントやストレングスの視点を取り入れた支援の方法について考える。

〔授業全体の内容の概要〕

家族が抱える問題の背景を知り、支援の必要性や解決のためのアプローチ、社会資源、ネットワーク等の技法について学ぶ。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

家族福祉の基礎的理解に立ち、その援助方法を習得する。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　人間にとって家庭とは何か
2　わが国の社会状況の変化と家庭
3　現代社会の家庭が内在している問題や課題
4　家庭支援の対象と役割
5　子どもと家庭
6　相談援助職による家庭支援
7　要保護児童とその家庭支援
8　家庭への個別的な支援
9　家庭支援にかかわる法と制度
10　家庭を支援する社会資源
11　子どもや家庭を支える社会福祉施設
12　地域支援の必要性
13　家庭を支援する技術
14　家庭支援や地域の子育て支援、児童の権利擁護の実際
15　理想とする家庭状況や地域環境

〔使用テキスト〕

橋本真紀、山縣文治『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房

〔参考文献〕

ミネルヴァ書房社会福祉士養成テキスト『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』

〔単位認定の方法及び基準〕

（試験やレポートの評価基準など）

試験を基本（90%）とするが、授業への取り組み（出席状況・マナー等 10%）も加味する。

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　山﨑　年幸
介護概論	（講義・演習・実習）	元　病院介護福祉士

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	社会福祉科3年　後期

〔授業の目的・ねらい〕
①社会福祉に求められる介護の意義を学ぶ。②介護の機能と範囲を学ぶ。③介護を必要とする人間の理解と尊厳を大切にしなければならないことを学ぶ。④介護に関わる関係職種の理解と連携について学ぶ。⑤自立に向けた介護の意義を学ぶ。⑥福祉用具の理解と、介護過程の意義について学ぶ。⑦これからの望ましい介護のあり方を考えられる力をつける。

〔授業全体の内容の概要〕
福祉の専門職に求められる倫理・多様なニーズに応える実践力が高まってきたため、社会福祉の現場では、社会福祉士と介護福祉士は、協働者として常に活躍している。そのため、介護福祉とはどのような機能と範囲であるかを理解し、連携のあり方を学習する内容とする。また、社会福祉の視点を持ちながら、介護実践を学ぶ内容とするためにも、人間の尊厳を重視した介護の本質を理解できる学習とする。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕
①社会福祉に求められる介護の意義が理解できる。 ②介護の機能と範囲が理解できる。
③介護を必要とする人間の理解と尊厳を大切にできる。 ④介護に関わる関係職種の理解と連携の義務が理解できる。 ⑤自立に向けた介護の意義の理解ができる。 ⑥福祉用具の理解と、介護過程の意義が理解できる。 ⑦これからの望ましい介護のあり方を考えられる。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数		
1	介護の概念と範囲　社会福祉士と介護	講義・演習
2	介護の理念	講義・演習
3	介護の対象	講義・演習
4	介護の予防	講義・演習
5	介護過程の展開	講義・演習
6	介護各論①　自立に向けた介護	講義・演習
7	介護各論①　家事における自立支援	講義・演習
8	介護各論①　身支度、移動、睡眠の介護	講義・演習
9	介護各論①　食事、口腔衛生の介護	講義・演習
10	介護各論①　入浴、清潔、排泄の介護	講義・演習
11	介護各論②　認知症ケア	講義・演習
12	介護各論②　終末期ケア	講義・演習
13	介護各論②　住環境	講義・演習
14	医療的ケア	講義・演習
15	介護における専門職の役割と連携　試験	講義・試験

〔使用テキスト〕
（編集）社会福祉士養成講座編集委員会　新・社会福祉士養成講座13『高齢者に対する支援と介護保険制度』第5版　中央法規

〔参考文献〕
介護福祉学研究会監修：介護福祉学、中央法規出版（株）

〔単位認定の方法及び基準〕
（試験やレポートの評価基準など）

筆記試験および出席状況、授業態度、提出物等を総合的に勘案し、評価する。評価基準は学則に定める通り。

授 業 概 要

科目名 児童・家庭福祉論Ⅰ	授業の種類 講義・演習	授業担当者　上栗　哲男 児童福祉施設理事長

授業の回数 15駒	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科　2年　　前期

〔授業の目的・ねらい〕

わが国は本格的な少子高齢社会を迎え、これまでのウエルフェア中心の児童福祉からウエルビーイングをもしっかりと見据えた児童家庭福祉への転換が求められる時代を迎えた。この新たな状況や課題を踏まえて、児童家庭福祉の諸課題と制度や実践に関する知識や倫理等について学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕

テキストを中心に進めるが、単元ごとに練習問題や事例問題を取り入れて理解度を確認していく。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　入所児童からの訴え（作文集『続・泣くものか』）
2　現代社会と子ども家庭の問題
3　子どものための福祉の原理
4　日本の児童福祉の歴史
5　戦後の児童福祉の歩み
6　児童福祉法
7　児童相談所と関連機関
8　児童福祉施設
9　児童の社会的養護サービス
10　児童虐待の定義
11　児童虐待の実態
12　子どもを虐待から保護する仕組み
13　子ども家庭への相談援助活動
14　施設ケアの内容
15　まとめと試験

〔使用テキスト〕

社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新・社会福祉士養成講座　児童や家庭に対する支援と
児童・家庭福祉制度」（中央法規出版）

〔参考文献〕

〔単位認定の方法及び基準〕

（試験やレポートの評価基準など）

試験を基本（90%）とするが、授業への取り組み（出席状況・マナー等 10%）も加味する。

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者 生田麻衣
カウンセリング演習	（講義・演習・実習）	東広島市教員委員会 スクールカウンセラー

授業の回数	時間数	配当学年・時期
３０コマ	６０時間	社会福祉科３年　前期・後期・通年

［授業の目的・ねらい］

カウンセリングとはどのようなものなのか、必要な技法や態度、心構えとはどのようなものなのか、基礎から理解する。

［授業全体の内容の概要］

カウンセリングの理論は、医療、社会福祉、教育などの現場で幅広く活用・実践されている。そこで、カウンセリングとはどのようなものなのか、そしてカウンセリングに必要な技法や態度、心構えとはどのようなものなのか、基礎から学修していく。また、

カウンセリングは比較的新しい学問領域であるため、いくつもの理論が存在しているが、その中でも基礎となる、精神分析、来談者中心療法、行動療法（認知行動療法）の三つを中心に学修していく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

カウンセリング理論の中でも特に、精神分析、来談者中心療法、行動療法（認知行動療法）の三つを実践できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1 カウンセリングとは何か
2 現代社会とカウンセリング
3 カウンセリングの定義，歴史，社会的背景
4 相談とカウンセリングの違い
5 カウンセリングの構造と機能
6 カウンセリングにおける枠とその意義
7 カウンセリングのはじめからおわり
8 カウンセリングのプロセスを概観
9 カウンセリングの基本的態度と技法1
10 マイクロカウンセリングのモデル
11 カウンセリングの基本的態度と技法2
12 イーガンとカーカフのモデル
13 心理アセスメントと個性の理解①
14 心理アセスメントと個性の理解②
15 カウンセリングの生成プロセス
16 カウンセリング独特のプロセスの理解
17 洞察と気づき
18 フロイトの精神分析理論におけるとらえ方
19 関係性と気づきへの視線
20 ロジャーズの人間中心理論
21 日本の心理療法
22 森田療法，内観法
23 身体への定位と注意集中
24 催眠法，自律訓練法
25 行動論的アプローチ
26 行動療法，認知行動療法
27 カウンセリングの多面的アプローチ
28 折衷主義，多面的アプローチの理解
29 カウンセリングを学ぶ
30 専門家として学びに求められること

［使用テキスト］

福島脩美
『総説カウンセリング心理学』金子書房。

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）

広島福祉専門学校学則第 26 条による。

（出席状況・考査・学習態度）

［参考文献］

福原真知子監修『マイクロカウンセリング技法』風間書房。
楡木満生、田上不二夫『カウンセリング心理学 ハンドブック 上巻』金子書房。
曽根剛『ロジャース理論概説』学苑社。
田畑治、他『講座サイコセラピー カウンセリング』日本文化科学社。

シ ラ バ ス

科目名	授業の種類	授業担当者　﨑井　真弓
リハビリテーション論	（講義・演習）	元　病院看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15回	30時間	社会福祉科3年

［授業の目的・ねらい］

障害を負うた人が社会復帰を目指すとき、医療職や理学療法士等の多職種連携によるチームアプローチが必須の手法として求められる。中でも連携や制度の活用の中心となる職種であるため、リハビリテーションの理論を理解していく

［授業全体の内容の概要］

リハビリテーションは障害者への総合的対策・技術であり、身体のみならず、精神的、社会的、経済的、職業的に可能な限りの回復を図る援助過程である。その意味では、障害者の基本的人権の具体化をめざす総合的援助体系であるともいえる。本科目では、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーションの理論と実践のバランスをよく学ぶことで、総合的な援助体系とし障害者の「自立」に必要な社会環境について理解を深める

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1 リハビリテーションの理念の理解
2 社会資源の理解
3 4領域のリハビリテーションの理解とICFを用いた支援技法の習得

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数

1 障害者福祉関係の法体系と施策について
障害者福祉に関わる各種法律や障害者の「自立と社会参加」を支援する施策について。

2 リハビリテーションの理念について　1
「リハビリテーション」の語源や定義の歴史的変遷について。

3 リハビリテーションの理念について　2
戦傷者のリハビリテーションから障害者（一般）への対象の拡大

4 リハビリテーションの理念について　3
世界保健機関（1968）及び国連・障害者に関する世界行動計画（1982）による定義について。

5 リハビリテーションの理念について　4
自立・ノーマライゼーション・生活の質・機会均等化・完全参加と平等、「全人間的復権」について。

6 障害者の「自立」に必要な社会環境について　1
社会環境整備の目的について（完全参加と平等。障害者も社会を構成する一員である）。

7 障害者の「自立」に必要な社会環境について　2
障害者のすべての生活場面（社会・教育・職業等）における完全参加と平等・自立について。

8 障害者の「自立」に必要な社会環境について　3
心（意識）のバリアフリーとハード（物理的）のバリアフリーについて。

9 障害者の「自立」に必要な社会環境について　4
活動制限から完全参加へ（福祉用具やユニバーサルデザイン等）。

10 障害者の「自立」に必要な社会環境について　4
演習　ユニバーサルデザインの体験。

11 医療リハビリテーションと専門職
医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割や医療・療育機関について。

12 職業リハビリテーションについて
障害者の経済活動への支援施策や障害者雇用促進法について。

13 社会リハビリテーション・教育リハビリテーションについて
障害者の「社会生活力」向上への支援。SST。障害児の教育支援について。

14 地域リハビリテーションについて
入所から地域生活へ。その生活を支援するシステムネットワークと専門職について。

15 まとめ・単位認定試験

［使用テキスト］
「よくわかるリハビリテーション」ミネルヴァ書房

［参考文献］
「最新介護福祉全書別巻2　リハビリテーション論」
メジカルフレンド社

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ	（講義・演習）	﨑井　真弓 元病院看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
Ⅰ　5回　　Ⅱ　18回	44時間	社会福祉科科2年

［授業の目的・ねらい］

解剖学、生理学、運動学、心理学等をもとに、人が生活する上でこころとからだはどのようにはたらくのかを示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を習得する。さらに疾病の発生メカニズムを学ぶことにより、「予防の視点」を身につけることができ、介護福祉士として利用者にかかわる際の健康を意識した支援を実践する根拠が理解できる。

［授業全体の内容の概要］

1 生命活動を維持する機能・恒常性が理解できる
2 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する
3 医療職との連携の必要性が理解できる。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1 生命を維持する機能が理解できる
2 「移動」「身じたく」「食事」「排泄」「整容」のしくみが理解できる
3 人体各部の機能低下・障害が及ぼす影響とその対処方法が理解できる
4 医療職との連携時の観察ポイントが理解できる

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数

Ⅰ　人間の心理
1　人のからだとは
2　脳のしくみ
3　人間の欲求
4　学習と記憶
5　まとめ・単元試験

Ⅱ　人間の構造と機能
1 生命のしくみ
2 人体の器官
3 循環器・呼吸器
4 骨格・筋肉・神経
5 まとめ・確認試験

Ⅲ　介護に関連したしくみの基礎的理解
6　移動と移乗
7　移動と移乗
8　食事
9　食事
10　入浴と清拭
11　入浴と清拭
12　排泄
13　排泄
14　衣服の着脱
15　整容・口腔ケア
16　睡眠
17　終末期
18　まとめ・単位認定試験

［使用テキスト］

「介護福祉学5上　こころとからだのしくみ」
主婦の友社
「介護福祉士養成　実務者研修テキスト　こころとからだのしくみ　Ⅰ・Ⅱ」 長寿社会開発センター

［参考文献］

「からだのしくみ事典」 成美堂出版
ナーシング・グラフィカ　解剖生理学　人体の構造と機能」 メディカ出版

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ	（講義・演習）	﨑井　真弓 元病院看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
Ⅰ　5回　　Ⅱ　18回	46時間	社会福祉科科2年

［授業の目的・ねらい］

解剖学、生理学、運動学、心理学等をもとに、人が生活する上でこころとからだはどのようにはたらくのかを示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を習得する。さらに疾病の発生メカニズムを学ぶことにより、「予防の視点」を身につけることができ、介護福祉士として利用者にかかわる際の健康を意識した支援を実践する根拠が理解できる。

［授業全体の内容の概要］

1 生命活動を維持する機能・恒常性が理解できる
2 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する
3 医療職との連携の必要性が理解できる。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1 生命を維持する機能が理解できる
2 「移動」「身じたく」「食事」「排泄」「整容」のしくみが理解できる
3 人体各部の機能低下・障害が及ぼす影響とその対処方法が理解できる
4 医療職との連携時の観察ポイントが理解できる

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数

Ⅰ　人間の心理
1　人のからだとは
2　脳のしくみ
3　人間の欲求
4　学習と記憶
5　まとめ・単元試験

Ⅱ　人間の構造と機能
1 生命のしくみ
2 人体の器官
3 循環器・呼吸器
4 骨格・筋肉・神経
5 まとめ・確認試験

Ⅲ　介護に関連したしくみの基礎的理解
6　移動と移乗
7　移動と移乗
8　食事
9　食事
10　入浴と清拭
11　入浴と清拭
12　排泄
13　排泄
14　衣服の着脱
15　整容・口腔ケア
16　睡眠
17　終末期
18　まとめ・単位認定試験

［使用テキスト］

「介護福祉学5上　こころとからだのしくみ」
主婦の友社
「介護福祉士養成　実務者研修テキスト　こころとからだのしくみ　Ⅰ・Ⅱ」 長寿社会開発センター

［参考文献］

「からだのしくみ事典」 成美堂出版
ナーシング・グラフィカ　解剖生理学　人体の構造と機能」 メディカ出版

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　　﨑井　真弓
医療的ケアⅠ		（講義・演習）	元病院看護師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
34回	54時間	社会福祉科3年	

[授業の目的・ねらい]

生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

1 医療的ケアに関する基礎的知識が理解できる
2 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる
3 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

第1節　医療的ケアの基礎
1 医療的ケアの定義
2「医行為」とは
3 医療的ケアを安全に行うための研修
4 個人の尊厳と医療の倫理
5 保健医療制度・医療過誤と無資格者による医業
6 医療行為に関する問題の本質
7 チーム医療と介護職員の連携
8 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
9 救急蘇生
10 感染予防・滅菌と消毒
11 健康状態・急変状態
12 確認試験

第2節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引
13 呼吸のしくみとはたらき
14「喀痰吸引」とは
15 喀痰吸引で用いる器具の理解・清潔保持
16 呼吸器系の感染と予防
17 口腔内吸引の実施手順と留意点
18 鼻腔内吸引の実施手順と留意点
19 気管カニューレ内部の吸引の実施手順と留意点
20 人工呼吸器と吸引・こどもの吸引
21 喀痰吸引に伴うケア
22 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、記録・報告
23 確認試験

第3節　高齢者および障害児・者の経管栄養
24 消化器系のしくみとはたらき
25「経管栄養」とは
26 経管栄養で用いる器具の理解・清潔保持
27 注入する内容に関する知識
28 胃ろう・腸ろう経管栄養の実施手順と留意点
29 経鼻経管栄養の実施手順と留意点
30 経管栄養実施上の留意点・こどもの経管栄養
31 経管栄養に必要なケア
32 経管栄養に関係する感染と予防
33 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、記録・報告
34 まとめ・単位認定試験

[使用テキスト]

「介護福祉士養成テキスト第4巻　医療的ケア」
日本介護福祉士養成施設協会

[参考文献]

「最新介護福祉全書13　医療的ケア」
メジカルフレンド社

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　　﨑井　真弓
医療的ケアⅡ		（講義・演習）	元病院看護師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
7回	14時間	社会福祉科3年	

［授業の目的・ねらい］

生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。

［授業全体の内容の概要］

医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる
2 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数

1　口鼻腔内吸引の実施（基本手順）
2　口鼻腔内吸引の実施（非侵襲的人工呼吸療法の口腔内・鼻腔内吸引）
3　気管カニューレ内部の吸引の実施（基本手順）
　（侵襲的人工呼吸療法の場合の気管カニューレ内部の吸引）
4　喀痰吸引の実技試験
5　胃ろうおよび腸ろうからの経管栄養の実施
6　経鼻経管栄養の実施
7 経管栄養の実技試験

［使用テキスト］

「介護福祉士養成テキスト第4巻　医療的ケア」
日本介護福祉士養成施設協会

［参考文献］

「最新介護福祉全書13　医療的ケア」
メジカルフレンド社

［単位認定の方法及び基準］

（試験やレポートの評価基準など）
・学則に定める通り
・レポート等の提出物

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者 澤田 祥子
手話	（講義・演習・実習）	広島県事業手話通訳士

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	社会福祉科1年

[授業の目的・ねらい]
聴覚障害を正しく理解する・初歩的な手話でのコミュニケーションが取れる

[授業全体の内容の概要]
聴覚障害に関する講義
手話に関する講義
聴覚障害者福祉制度に関する講義
聴覚障害者の生活実態に関する講義
接し方に関する講義
手話実技の学習をし、手話でのコミュニケーションをする
聴覚障害者との直接コミュニケーション実践

[授業終了時の達成課題（到達目標）]
聴覚障害を正しく理解する。
身の回りのことが手話で話せる。初歩的な手話でのコミュニケーションが取れる
聴覚障害者の気持ちを察することが出来る

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数		
1	講義：コミュニケーション方法と留意点	実技：テキスト1講座
2	講義：手話について	実技：テキスト2講座
3	講義：聴覚障害の基礎知識（機能障害）	実技：テキスト3講座
4	講義：聴覚障害の二次障害	実技：テキスト4講座
5	講義：聴覚障害児教育	実技：テキスト5講座
6	講義：聴覚障害者の生活	実技：テキスト6講座
7	講義：聴覚障害者の生活（家庭生活）	実技：テキスト7講座
8	講義：聴覚障害者運動の歴史	実技：テキスト8講座
9	講義：聴覚障害者福祉制度1	実技：テキスト9講座
10	講義：コミュニケーション支援事業等	実技：テキスト10講座
11	講義：聴覚障害者と労働	実技：テキスト11講座
12	講義：手話学習者の現状	実技：テキスト12講座
13	実技：手話でスピーチ14講座	実技：ろう者と話そう①
14	講義：聴覚障害者から学ぼう	実技：ろう者と話そう②
15	まとめ（実技試験・筆記試験）	

[使用テキスト]
ひろしま手話学習のてびきV
聞こえない人とのコミュニケーション
～手話学習編～

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　砂橋　昌義
レクリエーション理論		（講義・演習・実習）	広島県レクリエーション協会事務局長
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
10コマ	20時間	社会福祉科　1年　　前期	

[授業の目的・ねらい]

レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける。

[授業全体の内容の概要]

介護福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につける。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

介護現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる技術を持つ。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 レクリエーションの意義
2 レクリエーション・インストラクラーの役割
3 楽しさを通した心の元気づくり
4 ライフステージと対象にあわせた心の元気づくり
5 心の元気と地域のきずな
6 人間交流のための交流分析（TA）
7 コミュニケーションと信頼関係づくりの理論
8 良好な集団作りの理論
9 樹種的・主体的に楽しむ力を育む理論
10 レクリエーション活動の安全管理

[使用テキスト]

楽しさをとおした心の元気づくり
　～レクリエーション支援の理論と方法～
公益財団法人日本レクリエーション協会編

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　砂橋　昌義
レクリエーション実技		（講義・演習・実習）	広島県レクリエーション協会事務局長
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
25コマ	50時間	社会福祉科　1年	

[授業の目的・ねらい]

レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける。

[授業全体の内容の概要]

福祉支援者として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を通して支援技術を身につける。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

福祉現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる技術を持つ。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 レクリエーション事業とは
2 事業計画Ⅰ（個人にアプローチする事業のつくり方）
3 事業計画Ⅱ（市民を対象にした事業のつくり方）
4 事業計画の作成と発表
5 コミュニケーションワーク　～ホスピタリティとは～
6 コミュニケーションに必要な態度等
7 ホスピタリティの示し方
8 アイスブレーキングの意義と基本技術
9 アイスブレーキングのプログラミング
10 アイスブレーキングのプログラムの立案
11 レクリエーションワークの理解
12 目的に合わせたレクリエーションワーク
13 素材アクティビティの選択
14 素材アクティビティの提供と相互作用の活用
15 対象にあわせたレクリエーションワークの基本技術
16 段階的アレンジ法の応用
17 歌を活かすレクリエーションワークの応用
18 ゲーム等を活かすレクリエーションワークの応用
19 テキストで使われている素材アクティビティ
20 総合演習の進め方（イベントプログラムの作成）
21 イベントプログラムの試行（対人交流技術）
22 レクリエーション支援技術のクリニック
23 人間開発トレーニングⅠ（情報管理・的あてゲーム）
24 人間開発トレーニングⅡ（リーダーシップ・スリーテン）
25 レクリエーション技術研修のまとめ

[使用テキスト]

楽しさをとおした心の元気づくり
～レクリエーション支援の理論と方法～
公益財団法人日本レクリエーション協会編

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　砂橋　昌義
福祉レクリエーション理論		（講義・演習・実習）	広島県レクリエーション協会事務局長
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15コマ	30時間	社会福祉科　2年	

[授業の目的・ねらい]

福祉レクリエーションの、人間生活における楽しさの追及を支える理論と支援の方法を理解する。このための、具体的な福祉レクサービスを企画実践し、個人や集団を支える福祉レクワーカーを育成する。

[授業全体の内容の概要]

社会福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性の尊重など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につけた福祉レクリエーションワーカー資格取得を目指し、福祉現場での多様なレクリエーション支援技術を身につける。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

介護現場で、楽しさを追及し、対象の主体性を引き出すレク支援ができる福祉レク・ワーカーの資格取得。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 楽しさの追及を支えること？～福祉レクリエーションとは～
2 なぜ楽しさの追及なのか～福祉レクリエーションの視点から～
3 その人らしい楽しさとは～多様な楽しさ、移り変わる楽しさ～
4 その人らしい楽しさを見通すためのヒント～楽しさをめぐる様々な理論～
5 楽しさの追及を支える支援者の営み、役割と心構え、技術
6 個人支援の手順～APIEプロセス～
7 総合的な支援の流れ～TRサービスモデル～
8 行動変容と自己効力感～行動変容に向けた効果的なレク支援～
9 デーサビスセンターでの福祉レクリエーション支援
10 小規模多機能型施設での福祉レクリエーション支援
11 特別養護老人ホームでの福祉レクリエ
12 地域の高齢者支援活動での福祉レクリエーション支援
13 障がい児・障がい者を対象にした福祉レクリエーション支援
14 子育て支援サービスでの福祉レクリエーション支援
15 これまでの福祉レクリエーションのあゆみ

[使用テキスト]

楽しさの追求を支える理論と支援の方法
～公益財団法人　日本レクリエーション協会編～

[参考文献]

よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル　1

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　砂橋　昌義
福祉レクリエーション援助論		（講義・演習・実習）	広島県レクリエーション協会事務局長
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
15コマ	30時間	社会福祉科2年	

[授業の目的・ねらい]

福祉レクリエーションの、人間生活における楽しさの追及を支える理論と支援の方法を理解する。このための、具体的な福祉レクサービスを企画実践し、個人や集団を支える福祉レクワーカーを育成する。

[授業全体の内容の概要]

社会福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性の尊重など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につけた福祉レクリエーションワーカー資格取得を目指し、福祉現場での多様なレクリエーション支援技術を身につける。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

介護現場で、楽しさを追及し、対象の主体性を引き出すレク支援ができる福祉レク・ワーカーの資格取得。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 利用者の思いと事業所の使命のマッチング
2 福祉レクリエーション総合計画
3 在宅サービスの中での福祉レクリエーション総合計画事例
4 入居サービスの中での福祉レクリエーション総合計画事例
5 個人のニーズと福祉レクリエーション総合計画の関係
6 福祉レクリエーション総合計画をつくる～福祉レクリエーション支援の事例研究～
7 福祉レクリエーション総合計画の策定
8 やるべきことを受け止め、楽しさ追及のために、やるべきことの決定を支える
9 対象者の思いと、支援者の視点の、マッチングの3つの事例
10 福祉レクリエーション支援の実際～事例を通した施設種別による支援計画の視点～
11 福祉レクリエーション支援における「福祉レク総合計画」と「福祉レクサービス支援プラン」総合の視点
12 対象者の思いと組織理念を含めたグループレクリエーションの計画立案とその評価
13 介護老人施設の行事例と準備・実施のポイント
14 行事・イベント計画のポイント～事例から見えてくる行事の意義と対象者が輝くポイント～
15 福祉レクリエーション支援の評価～まとめ～

[使用テキスト]

楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施
～公益財団法人　日本レクリエーション協会編～

[参考文献]

よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル　2

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　砂橋　昌義
福祉レクリエーション援助技術	（講義・実技・演習）	広島県レクリエーション協会事務局長

授業の回数	時間数	配当学年・時期
30 コマ	60 時間	社会福祉科4年

[授業の目的・ねらい]
レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考.対人援助技術を身につけた福祉レクリエーション・ワーカーの育成と資格取得対策。

[授業全体の内容の概要]
社会福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につけた福祉レクリエーションワーカーの育成と資格取得を目指した試験の対策。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]
介護現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる福祉レク・ワーカーの資格取得。

[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法]
1 福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の考え方
2 レクリエーション財の分類とレクリエーション財をどう生かすかの方策
3 レクリエーション財の活動分析の考え方と方法
4 活動分析の方法とその分析をどのように活用するかの方策
5 障害や個人に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ
6 レクリエーション財のアレンジの実際
7 事例からみたレクリエーション財の提供の仕方
8 情報収集、人的ネットワーク、社会資源の活用方策
9 楽しみを基調とした回想法・音楽療法・園芸療法
10 楽しみを基調としたフラワーセラピー・化粧療法・動物介在療法
11 楽しみを基調にしたダンス療法・プレイセラピー
12 援助のための対人援助者に求められる資質
13 援助のためのコミュニケーション技法
14 実践例題（言葉かけとリスニング）
15 援助者の人間開発トレーニング
16 老人病院でのレクリエーション援助
17 老人保健施設におけるセラピューティックレクリエーションの取り組み
18 特別養護老人ホームでのレクリエーション援助
19 通所としての老人デイサービスセンターでのレクリエーション援助
20 ホームヘルプサービス利用者へのレクリエーション援助
21 心身障害者施設でのレクリエーション援助
22 精神病院でのレクリエーション援助
23 知的障害者施設でのレクリエーション援助
24 児童施設でのレクリエーション援助
25 地域ボランティアとしてのレクリエーション援助
26 福祉レクリエーションワーカー・プログラム計画書の作成
27 個人への直接のレクリエーション援助の実技試験クリニック
28 グループへのレクリエーション援助の実技試験クリニック
29 福祉レクリエーションワーカー模擬筆記試験
30 福祉レクリエーション一カー学内審査

[使用テキスト]
楽しさの追求を支えるための介入技術
～公益財団法人　日本レクリエーション協会編～

[参考文献]
よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル　3

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者　鍋島　一仁
キャンプ指導法	（講義・実技・演習）	広島県キャンプ協会副会長・ 広島市キャンプ協会会長

授業の回数	時間数	配当学年・時期
15コマ	30時間	社会福祉科　1年　　前期

[授業の目的・ねらい]
社会環境の変化に伴いキャンプに期待される役割が増大し、キャンプに対する要求も多様化してきた。幼児から高齢者までの福祉キャンプ等、この分野の専門性の高い知識と能力を持つ指導者を育成する。

[授業全体の内容の概要]

野外体験型のキャンプは、自然環境に対する基本的な知識とともに、人々が歴史的発展の中で失ってきた不足体験等への気づき等重要な役割を担っている。キャンプインストラクターは、これらキャンプの意義を理解し、目的に応じた必要な知識と安全指導、野外生活技術や自然応用技術、さらには人間関係づくりまで多様な指導力が求められる。福祉キャンプは、これからの期待が高く、キャンプインストラクターの資格取得が求められ、実習を中心に技術指導・生活指導・人間関係づくりについて体験的に学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]
福祉現場で活用できるキャンプ指導技術を備えたキャンプインストラクターの資格取得。

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]
[理論コマ]
1 キャンプの特性と安全……学校授業の中で講義
2 キャンプの計画・運営・評価……　〃
3 キャンプの歴史と指導者……野外での講演・実習
[基礎実技のコマ]
1 テント技術、キャンプクラフト、野外炊事法……野外での指導実習
2 ロープワーク、キャンプ用具使用法……　〃
3 キャンプファイヤー技術……　〃
（注）野外ゲーム、救急救命法については他の授業の読み替えとする。

[使用テキスト]
キャンプ専門科目テキスト
～日本キャンプ協会編～

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。

授 業 概 要

科　目　名 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（実務者研修）	授業の種類 （講義・演習実習）	授業担当者　河野ひろ子 元病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
3	6	社会福祉科2年

〔授業の目的・ねらい〕

介護は障害を持つ人の疾病を予防して健康を護り、活動を援助・支援して生活を機能させることを目標としており、特に「活動」の領域を中心にアセスメントする。利用者の生活を機能させるためには、具体的に生活支援をいつ、どのような方法で行うのかを理解していなければならないが、まず基本的な支援技術を理解する。そして、さらに状況に応じた介護について考察することで、「介護過程Ⅲ」のスクーリングにつなげる。

〔授業全体の内容の概要〕

①生活支援とICF
②ボディメカニクス
③介護技術の基本
④環境整備、福祉用具の活用
⑤利用者の心身の状況に合わせた介護

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

・生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解する。
・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。
・介護技術の基本を習得している。
・利用者の状態像に応じた生活支援技術の留意点を理解できる。

〔授業終了時の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

1　ICFの視点に基づくアセスメント
　ボディメカニクス　　移動移乗介助
2　自立に向けたセルフケア
　環境整備と福祉用具活用
3　利用者の心身の状況に合わせた介護
　単位認定試験

〔使用テキスト〕

・中川義基編著：介護福祉学『こころとからだのしくみ上』，主婦の友社
・　介護職員関係養成研修テキスト作成委員会編：「介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

〔参考文献〕

・

〔単位認定の方法及び基準〕

（試験やレポートの評価基準など）

・学校規定に準ずる　　試験60点以上

・レポートなど提出物などの提出の有無も採点の評価となる。

授 業 概 要

科　目　名	授業の種類	授業担当者　河野ひろ子
介護過程Ⅰ・Ⅱ（実務者研修）	（講義・演習実習）	元病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
2	4	社会福祉科2年

〔授業の目的・ねらい〕

介護は障害を持つ人の疾病を予防して健康を護り、活動を援助・支援して生活を機能させることを目標とする。この目標を達成するために、介護過程を展開していくことをまず理解する。

生活が機能しているかどうかは ICF により評価し、「活動」の領域を中心に、特に援助・支援の必要な活動の項目に対して、「心身機能・身体構造」「他の活動」「参加」さらに「環境因子」「個人因子」がどう影響しているかを分析する。このアセスメントの重要性を理解し、事例学習を通して、介護過程の実践的展開の「介護過程Ⅲスクーリング」につなげる。

〔授業全体の内容の概要〕

Ⅰ①介護過程の基礎的理解
②介護過程の展開
③介護過程とチームアプローチ
Ⅱ①介護過程の展開の実際

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

・介護過程の目的、意義、展開等を理解する。
・介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う必要性を理解する。
・チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解する。
・事例学習を通して、介護過程の展開過程をまとめることができる。

〔授業終了時の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

1　介護過程の基礎的理解

2　介護過程の展開の実際　評価課題の出題

〔使用テキスト〕

・中川義基編著：介護福祉学『こころとからだのしくみ上』，主婦の友社
・　介護職員関係養成研修テキスト作成委員会編：「介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

〔参考テキスト〕

〔単位認定の方法及び基準〕

（試験やレポートの評価基準など）

・課題で評価。内容のみでなく、提出期限や規定が守られているかも採点の評価となる。

授 業 概 要

科　目　名	授業の種類	授業担当者　河野ひろ子
発達と老化の理解Ⅰ（実務者研修）	（講義・演習実習）	元病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
5	10	社会福祉科2年

〔授業の目的・ねらい〕

心身に障害を有し、介護や支援を必要とする人の約 80%を占める高齢者はもちろん、障害児・者に対しても介護職がかかわる機会が多くなった。このことから、科学的な介護のためには老化だけでなく人間の成長や発達についても理解を深める必要性があるといえる。老化を発達面からみることで、介護の対象である高齢者の理解が深まり、介護実習にも役立つよう、学習効果が求められる。

授業の最後には、障害者についての介護観を述べることができる。

〔授業全体の内容の概要〕

発達と老化について

老化に伴うこころの変化

老化に伴う身体の変化

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

心身機能の老化の特徴を発達という視点からのべることができる。

高齢者に多い症状および病気について理解し、日常生活での留意点を述べることができる。

特に、精神面・健康面などの影響とその介護を追求することができる。

〔授業終了時の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

1　老化とは　　老化に伴うこころの変化
2　高齢者の精神的特徴と病気
3　加齢と老化、身体の成り立ち
4　身体機能の変化と日常生活への影響
5　五感の変化による日常生活への影響

〔使用テキスト〕

・介護職員関係養成研修テキスト作成委員会編:「発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ」, 長寿社会開発センター

〔参考文献〕

- 福祉士養成講座編集委員会編:「発達と老化の理解」中央法規
- 林けんじ編集:最新介護福祉全書『発達と老化の理解』, メヂカルフレンド社

〔単位認定の方法及び基準〕

（試験やレポートの評価基準など）

・学校規定に準ずる　　試験 60 点以上

・レポートなど提出物などの提出の有無も採点の評価となる。

授　業　概　要

科　目　名	授業の種類	授業担当者　河野ひろ子
発達と老化の理解Ⅱ（実務者研修）	（講義・演習実習）	元病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
１０	２０	社会福祉科２年

〔授業の目的・ねらい〕

心身に障害を有し、介護や支援を必要とする人の約 80%を占める高齢者はもちろん、障害児・者に対しても介護職がかかわる機会が多くなった。このことから、科学的な介護のためには老化だけでなく人間の成長や発達についても理解を深める必要性があるといえる。老化を発達面からみることで、介護の対象である高齢者の理解が深まり、介護実習にも役立つよう、学習効果が求められる。

〔授業全体の内容の概要〕

人間の成長・発達
高齢期の発達課題、心理的な課題
高齢者に多い症状と疾病、その留意点

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

心身機能の老化の特徴を発達という視点からのべることができる。
高齢者に多い症状および病気について理解し、日常生活での留意点を述べることができる。
特に、精神面・健康面などの影響とその介護を追求することができる。

〔授業終了時の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

1　発達の定義、発達課題
2　高齢期の発達課題（心理的）
3　健康チェックとバイタルサイン
4　高齢者に多い症状　感覚器の病気
5　感染による病気　循環器系
6　呼吸器・消化器系の病気
7　血液・内分泌系・精神の病気
8　運動器・脳・神経系の病気
9　アレルギー・生活習慣病
10　まとめ

〔使用テキスト〕

・介護職員関係養成研修テキスト作成委員会編：「発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ」，長寿社会開発センター

〔参考文献〕

・　福祉士養成講座編集委員会編：「発達と老化の理解」中央法規
・　林けんじ編集：最新介護福祉全書『発達と老化の理解』，メヂカルフレンド社

〔単位認定の方法及び基準〕
（試験やレポートの評価基準など）

・学校規定に準ずる　　試験 60 点以上

・レポートなど提出物などの提出の有無も採点の評価となる。

授 業 概 要

科　目　名	授業の種類	授業担当者　河野ひろ子
障害の理解Ⅰ（実務者研修）	（講義・演習実習）	元病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
5	10	社会福祉科2年

〔授業の目的・ねらい〕

介護従事者は、障害のために日常生活上の困難を生じている人の日常生活を支援する。対象者を理解するためには障害を理解することは必須である。Ⅰでは、障害の基礎的理解として、障害の概念や障害者福祉の基本理念を学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕

・障害の基本理念の理解

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

・障害の基本理念を理解できる。

〔授業終了時の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

1　障害とは、どう捉えていますか？
2　障害とは・・・定義
3　障害者とは
4　障害の原因
5　障害と心理、自立

〔使用テキスト〕

・中川義基編著：介護福祉学『障害の理解』，主婦の友社

〔参考文献〕

・　谷口敏代・編集：最新介護福祉全書『障害の理解』，メヂカルフレンド社

〔単位認定の方法及び基準〕

（試験やレポートの評価基準など）

・学校規定に準ずる　　試験 60 点以上

・レポートなど提出物などの提出の有無も採点の評価となる。

授 業 概 要

科　目　名	授業の種類	授業担当者　河野ひろ子
障害の理解Ⅱ（実務者研修）	（講義・演習実習）	元病院・高齢者施設看護師

授業の回数	時間数	配当学年・時期
10	20	社会福祉科2年

〔授業の目的・ねらい〕

介護従事者は、障害のために日常生活上の困難を生じている人の日常生活を支援する。対象者を理解するためには障害を理解することは必須である。Ⅱでは、医学的側面からの基礎的知識として、身体、精神、ある人の一人ひとりの尊厳を保持し、見守ることを含めた適切な介護への視点を学ぶ。

授業の最後には、障害者についての介護観を述べることができる。

〔授業全体の内容の概要〕

・医学的基礎知識（運動機能障害・内部障害・発達障害・難病）
・障害者介護における連携と協働
・家族への支援

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

・医学的側面から障害を理解できる
・それぞれの障害からくる生活への影響を理解できる。
・障害者への介護観をのべることができる。

〔授業終了時の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

1　肢体不自由のある人の理解
2　高次脳機能障害のある人の理解
3　脳性まひ、重症心身障害の理解など
4　視覚障害のある人の理解
5　聴覚・言語障害のある人の理解
6　こころの障害の理解
7　発達障害のある人の理解
8　内部障害のある人の理解
9　難病の人の理解
10　障害者介護における連携と協働
確認テスト

〔使用テキスト〕

・中川義基編著：介護福祉学『障害の理解』，主婦の友社

〔参考文献〕

・　谷口敏代・編集：最新介護福祉全書『障害の理解』，メヂカルフレンド社

〔単位認定の方法及び基準〕

（試験やレポートの評価基準など）

・学校規定に準ずる　　試験 60 点以上

・レポートなど提出物などの提出の有無も採点の評価となる。

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　野村 裕之
介護の基本Ⅰ（実務者研修）		（講義・演習・実習）	元　病院介護福祉士
授業の回数 5駒	時間数 10時間	配当学年・時期 社会福祉科2年 前期	

［授業の目的・ねらい］

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習。

［授業全体の内容の概要］

1．福祉を担うマンパワーとしての介護福祉士について学習する。2．介護福祉の基本理念について学習する。3．介護福祉の対象となる人について学習する。4．介護福祉サービスについて学習する。5．介護福祉の倫理について学習する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1．福祉を担うマンパワーとしての介護福祉士について理解する。2．介護福祉の基本理念について理解する。3．介護福祉の対象となる人について理解する。4．介護福祉サービスについて理解する。5．介護福祉の倫理について理解する。

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数

1 介護福祉とは
2 介護福祉の定義と理念
3 介護福祉の原則
4 関連領域（看護・リハビリテーション）
5 包括的日常生活支援

［使用テキスト］

介護福祉士養成 実務者研修テキスト
介護の基本Ⅰ・Ⅱ 第2版
編集 介護職員関係養成研修テキスト作成委員会

［参考文献］

介護福祉学4『障害の理解』
（著）中川 義基 （主婦の友社）
介護福祉学5『こころとからだのしくみ』
（著）中川 義基 （主婦の友社）

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）

・単位認定試験

・授業態度（授業を受ける姿勢）

基準は学則の定める通り

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者 野村 裕之
介護過程（実務者研修）	（講義・演習・実習）	元病院介護福祉士

授業の回数	時間数	配当学年・時期
30駒	60時間	社会福祉科3年 通年

［授業の目的・ねらい］

・利用者一人ひとりが望む生活を実現する介護サービスを提供するために、その利用者の情報収集を行い、解決すべき課題を把握し、介護計画を立案し、実施し、評価するという一連の行為を学ぶ。
・ICFに基づく介護過程の展開を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

①介護過程の意義、目的、展開等を学び、介護過程を踏まえ目標に沿って計画的に介護を行うことについて学ぶ。
②介護過程を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援。他職種、他機関との連携について学ぶ。
③知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供することにつて学ぶ

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

①介護過程の意義、目的、展開等を学び、介護過程を踏まえ目標に沿って計画的に介護を行うことについて学ぶ。
②介護過程を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援。他職種、他機関との連携について学ぶ。
③知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供することにつて学ぶ

［授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法］

コマ数

1 オリエンテーション・介護過程とは
2 介護過程の構成要素と意義
3 介護過程におけるニーズ・介護福祉の役割
4 ICFとは
5 ICFの特徴
6 ICFの基本的な考え方
7 ICFの構成要素間の相互作用
8 ICFと介護過程
9 ICFに基づく介護過程とは
10 アセスメントとは
11 事例を使った情報収集①
12 事例を使った情報収集②
13 情報の統合（情報の整理）
14 ニーズとは
15 計画の立案とは
16 計画の実施とは
17 計画の評価とは
18 介護過程の再立案について
19 介護過程について再確認
20 ICFに基づく介護過程（事例学習）①
21 ICFに基づく介護過程（事例学習）②
22 ICFに基づく介護過程（事例学習）③
23 ICFに基づく介護過程（事例学習）④
24 ICFに基づく介護過程（事例学習）⑤
25 ICFに基づく介護過程（事例学習）⑥
26 介護計画に基づく介護技術①
27 介護計画に基づく介護技術①
28 介護計画に基づく介護技術①
29 介護保険法・障害者総合支援法のサービスと介護過程
30 まとめ・試験

［使用テキスト］

介護福祉士養成 実務者研修テキスト
介護過程 第2版
編集 介護職員関係養成研修テキスト作成委員会

［参考文献］

病気が見える Vol.11 運動器・整形外科 第1版
編集 医療情報科学研究所（メディックメディア）
介護福祉学5『こころとからだのしくみ』
（著）中川 義基 （主婦の友社）

［単位認定の方法及び基準］
（試験やレポートの評価基準など）

・単位認定試験（単元末試験を含む）

・授業態度（授業を受ける姿勢）

・提出物（内容、提出期間の厳守）

基準は学則の定める通り

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者　内平　八重子
ソーシャルワーク実習		（講義・演習・実習）	社会福祉協議会勤務
授業の回数	時間数	配当学年・時期	
40コマ	80時間	社会福祉科3年　後期	

[授業の目的・ねらい]

①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で、施設・機関に配属する。
実習指導者と連携し、学生の学びが深まるよう、指導プログラムを計画する。
実習指導者の指導を受けながら、業務の進め方や記録の方法等について学び、実習施設においてチームの一員として活躍する能力を養う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

①基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成について学ぶ
②社会福祉施設・機関の経営やサービスの運営管理について学ぶ
③社会福祉施設・機関の利用者、また生活ニーズについて学ぶ
④社会福祉施設・機関の職員の役割、また多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ
⑤クライエントへの援助実践を通じて、相談援助技術を高める
⑥社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的な働きかけについて学ぶ
⑦社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任について学ぶ

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]
コマ数

実習は3年次に80時間10日で行う。
3年次の実習は利用者理解、施設理解を中心とする。
実習中は、45時間ごとに1回、実習巡回指導を行い、自己中間評価及び課題の明確化を行わせ、教員は状況把握と改善点の指導を行う。

[使用テキスト]
「相談援助実習」中央法規出版社

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

相談援助実習指導の授業および、実習施設における実習評価によって判断する。

授 業 概 要

科目名	授業の種類	授業担当者 内平 八重子
ソーシャルワーク実習	（講義・演習・実習）	元保健師、社会福祉協議会勤務

授業の回数	時間数	配当学年・時期
60コマ	120時間	社会福祉科4年 前期

[授業の目的・ねらい]

①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で、施設・機関に配属する。
実習指導者と連携し、学生の学びが深まるよう、指導プログラムを計画する。
実習指導者の指導を受けながら、業務の進め方や記録の方法等について学び、実習施設においてチームの一員として活躍する能力を養う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

①基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成について学ぶ
②社会福祉施設・機関の経営やサービスの運営管理について学ぶ
③社会福祉施設・機関の利用者、また生活ニーズについて学ぶ
④社会福祉施設・機関の職員の役割、また多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ
⑤クライエントへの援助実践を通じて、相談援助技術を高める
⑥社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的な働きかけについて学ぶ
⑦社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任について学ぶ

[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]

実習は4年次に120時間16日で行う。
年次の実習は、利用者理解、施設理解を深め、ソーシャルワークの実践を行う。
さらに、個別支援計画の立案と展開を行う。
実習中は、45時間ごとに1回、実習巡回指導を行い、自己中間評価及び課題の明確化を行わせ、教員は状況把握と改善点の指導を行う。

[使用テキスト]
「相談援助実習」中央法規出版社

[参考文献]

[単位認定の方法及び基準]
（試験やレポートの評価基準など）

相談援助実習指導の授業および、実習施設における実習評価によって判断する。